

## 第2章 現状と課題

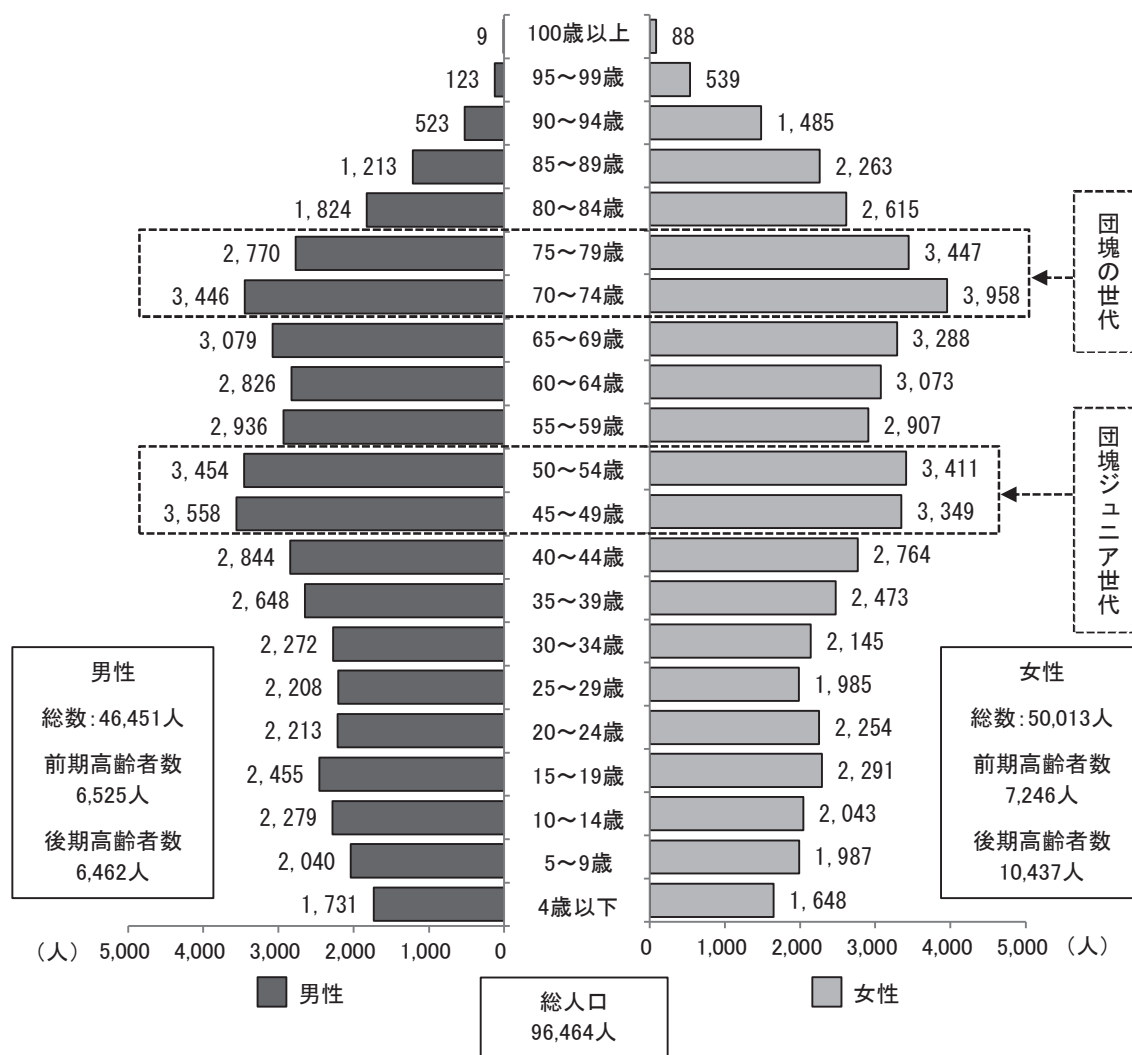
### 1 高齢者を取り巻く現状

#### (1) 人口の推移と推計

本市の令和5（2023）年9月30日現在の人口構造は、少子高齢化を示す「つぼ型」となっており、今後の高齢化率の上昇が予想されるものとなっています。

また、団塊の世代にあたる74～76歳の人口が男女ともに多くなっており、令和7（2025）年には団塊の世代が75歳以上となる2025年問題を迎えることを示しています。さらに、団塊ジュニア世代にあたる48～52歳の人口が多く、令和22年（2040）年には、この世代が65歳を迎えることとなります。

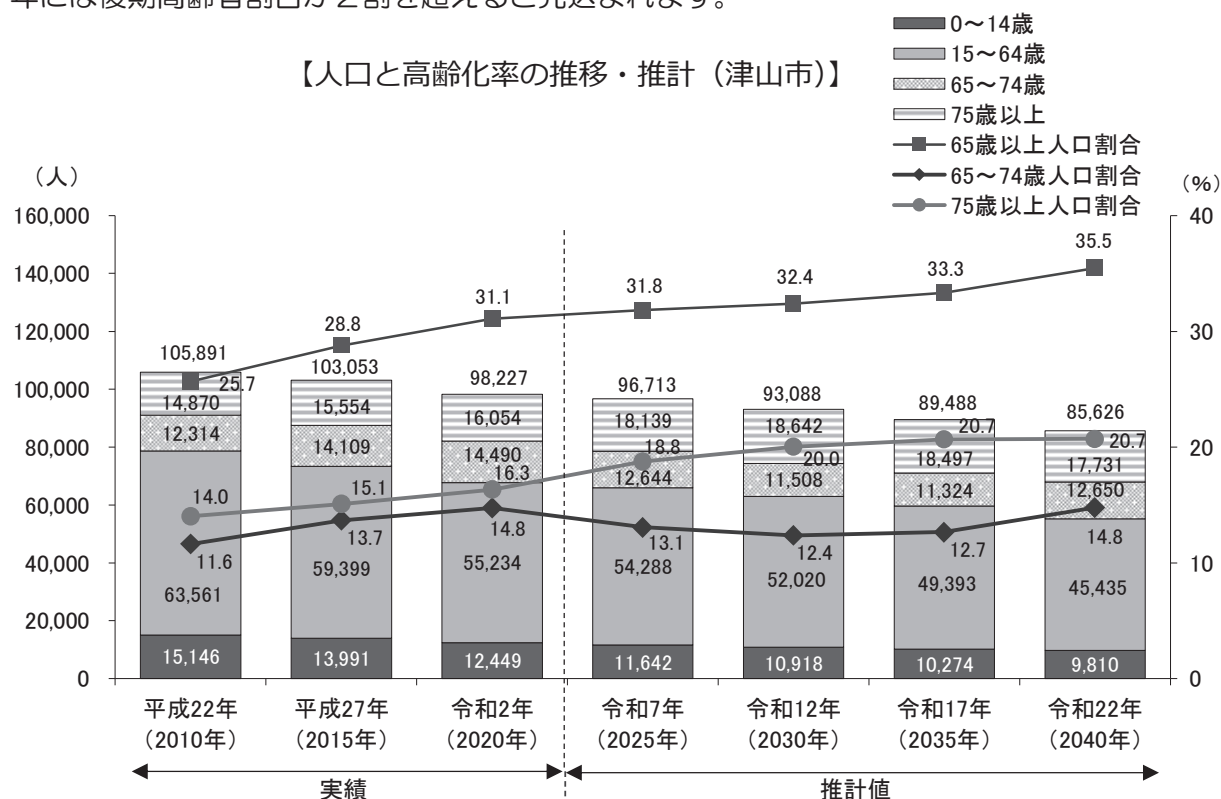
【人口ピラミッド（津山市）】



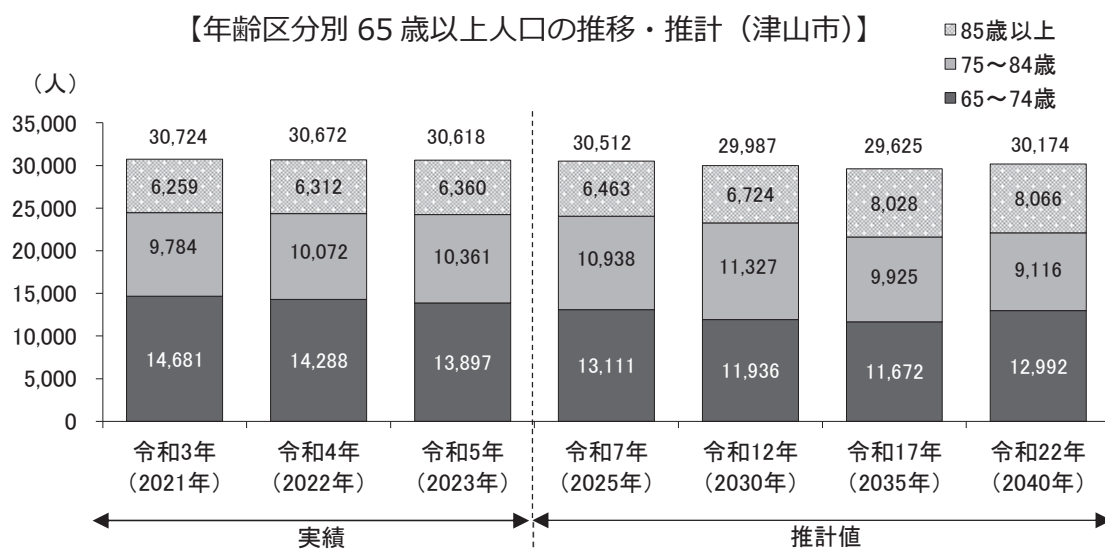
資料：住民基本台帳人口（令和5（2023）年9月30日現在）

本市の国勢調査による総人口は減少傾向にあります。全国と同様に高齢者の占める割合は上昇していくと見込まれます。

特に75歳以上の後期高齢者は65～74歳人口の割合を上回っており、令和12(2030)年には後期高齢者割合が2割を超えると見込まれます。



資料：平成 22(2010)年～令和2(2020)年まで：総務省「国勢調査」  
令和7(2025)年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

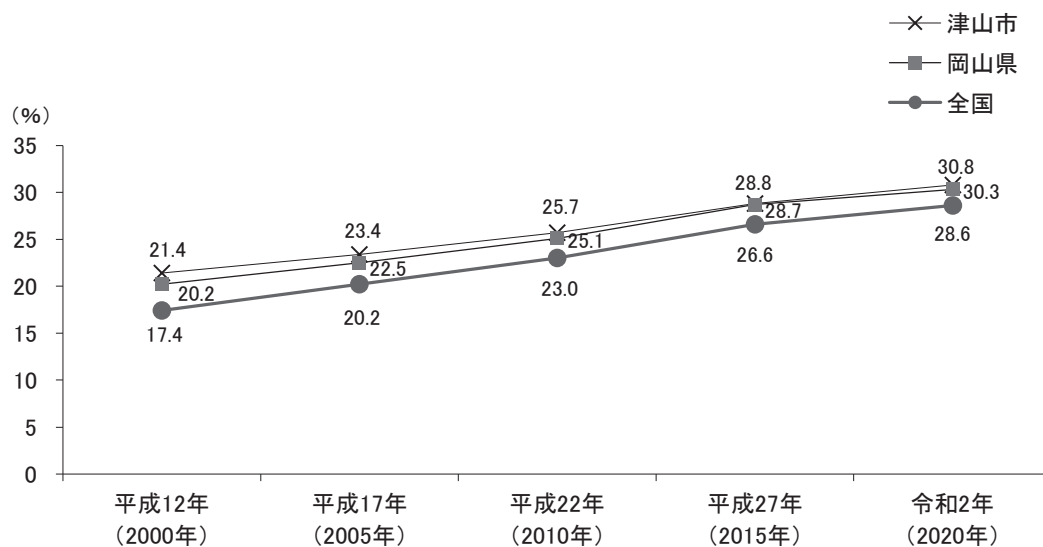


資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」を補正した数値

## (2) 高齢化率の推移

本市の高齢化率は、全国より高く推移しており、令和2（2020）年には3割を超え、30.8%となっています。

【高齢化率の推移（全国・岡山県・津山市）】



区分	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年度 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
津山市	21.4%	23.4%	25.7%	28.8%	30.8%
岡山県	20.2%	22.5%	25.1%	28.7%	30.3%
全国	17.4%	20.2%	23.0%	26.6%	28.6%

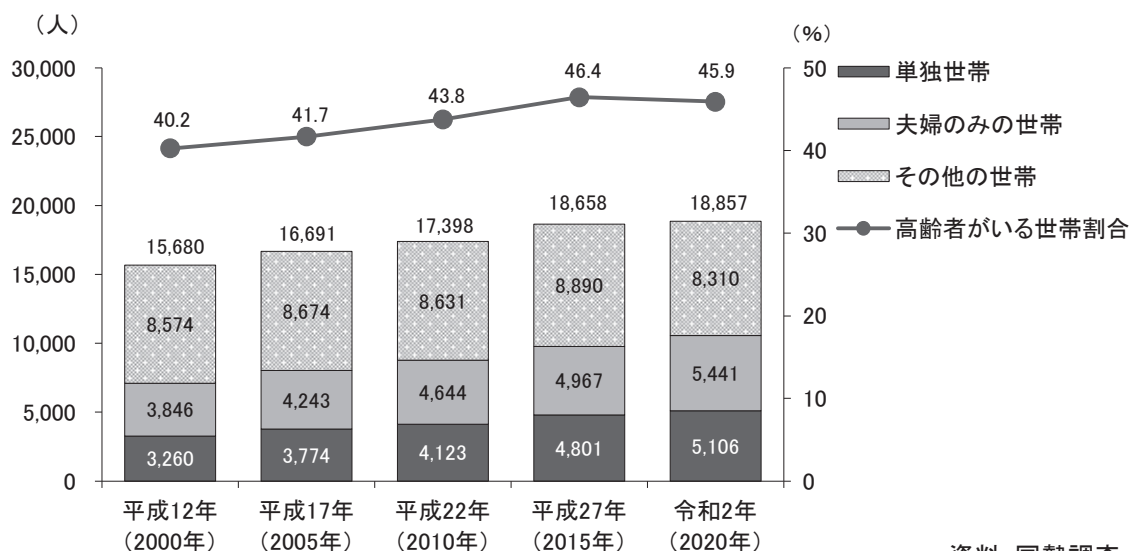
資料：国勢調査

### (3) 高齢者がいる世帯の推移

本市の国勢調査による65歳以上の高齢者がいる世帯は増加しており、一般世帯に占める割合も上昇していましたが、令和2（2020）年では減少しています。

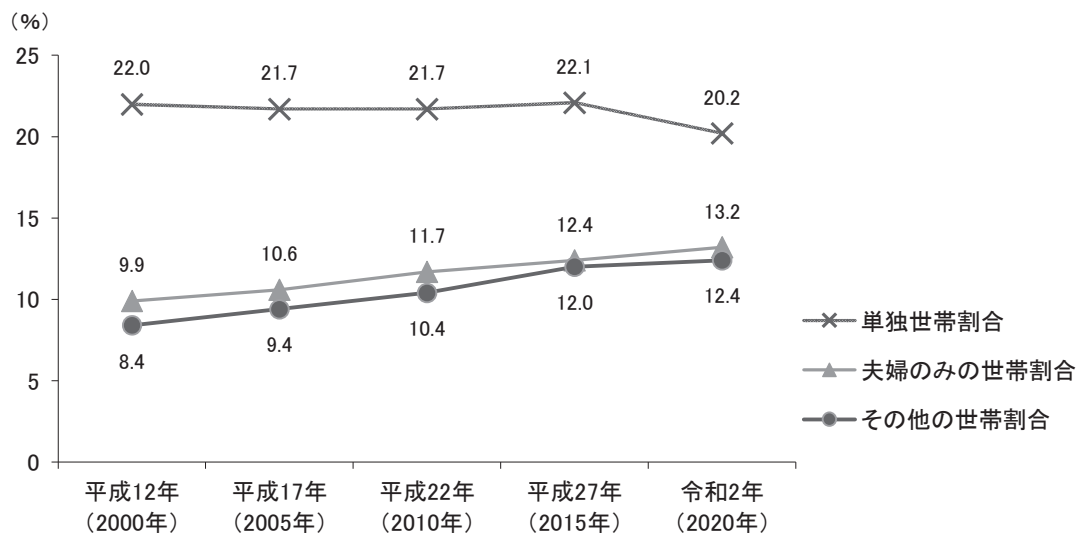
夫婦のみの世帯、単独世帯の伸びが大きくなっています。

【高齢者がいる世帯数と一般世帯に占める割合（津山市）】



資料：国勢調査

【家族類型別高齢者がいる世帯割合（津山市）】

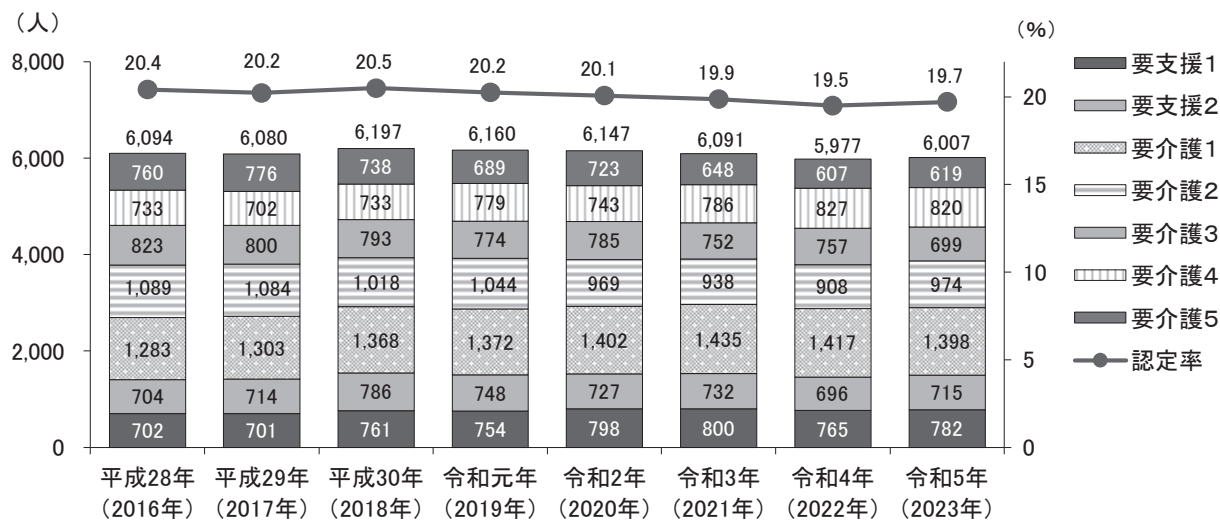


資料：国勢調査

#### (4) 要支援・要介護認定者の状況

本市の要支援・要介護認定者数（第1号被保険者）は年度によって増減はありますが、ほぼ横ばいで推移しています。

【認定者数・認定率（第1号被保険者）の推移（津山市）】

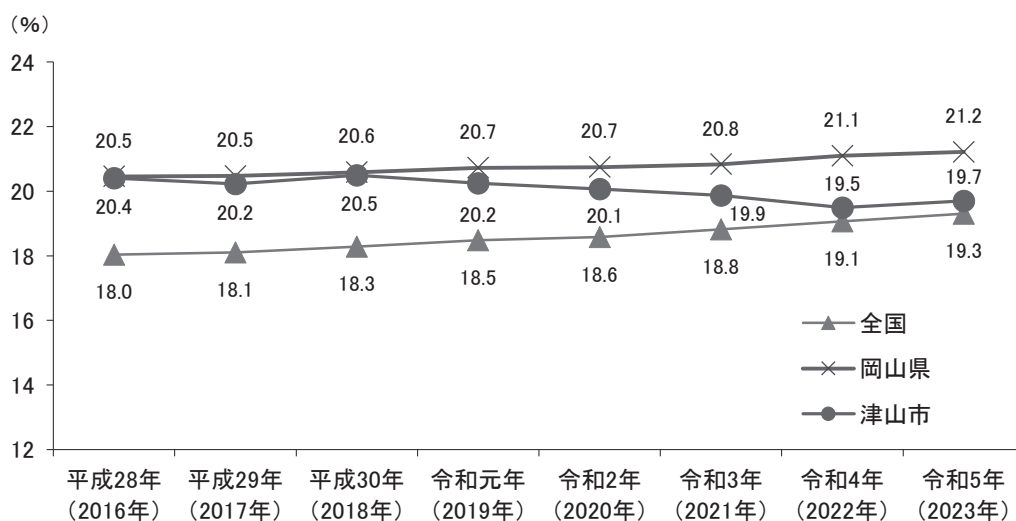


資料：厚生労働省介護保険事業状況報告（月報9月末時点）

本市の第1号被保険者数に占める認定率は19.5～20.5%で推移しており、全国と比較すると高くなっていますが、令和4（2022）年、令和5（2023）年では、差は0.4ポイントまで小さくなっています。

岡山県と比較すると、低くなっています。

【認定率（第1号被保険者）の推移（全国・岡山県・津山市）】

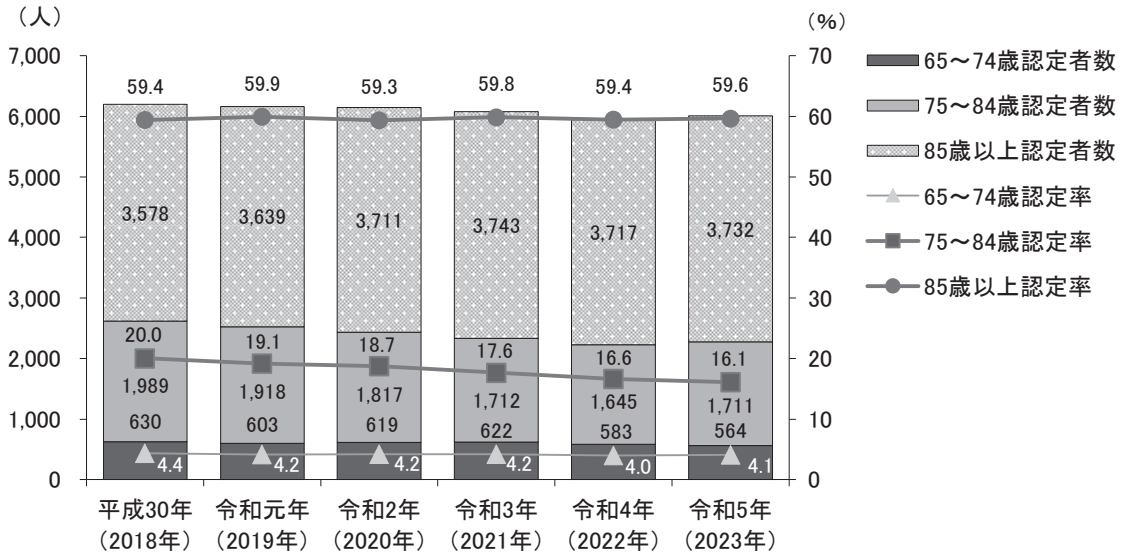


資料：厚生労働省介護保険事業状況報告（月報9月末時点）

本市の令和5（2023）年9月末の85歳以上の要支援・要介護認定者数は3,732人であり、認定者数の約6割を占めています。75歳から84歳の認定率は年々低下しています。

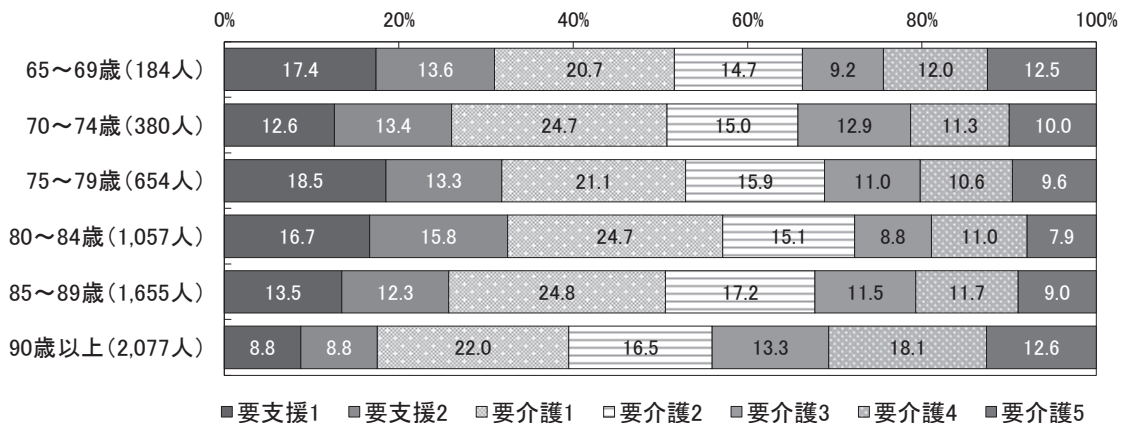
89歳の認定者までは、要支援1・2の割合が2割台～3割台となっていますが、90歳以上の認定者では1割台にとどまり、要介護3以上の割合が高くなっています。

【年齢区分別の認定者数と認定率の推移（津山市）】



資料：厚生労働省介護保険事業状況報告（月報9月末時点）

【年齢区分別の認定者の要介護度別割合（津山市）】



資料：厚生労働省介護保険事業状況報告（月報令和5(2023)年9月末時点）

## (5) 認知症高齢者の状況

介護認定における、主治医意見書に記載の日常生活自立度を基に、自立度Ⅱ以上を認知症高齢者としています。有病率については、認知症高齢者数を高齢者数で割って算出しています。

【日常生活自立度の区分】

区分	概要	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している状態	
Ⅱa	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で見られるが、誰かが注意していれば自立できる状態	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
Ⅱb	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られても、誰かが注意していれば自立できる状態	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者の対応など一人で留守番ができない等
Ⅲa	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが日中を中心に見られ、介護を必要とする状態	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
Ⅲb	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間を中心に見られ、介護を必要とする状態	
Ⅳ	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態(遷延性意識障害(重度の昏睡状態)等あり)	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

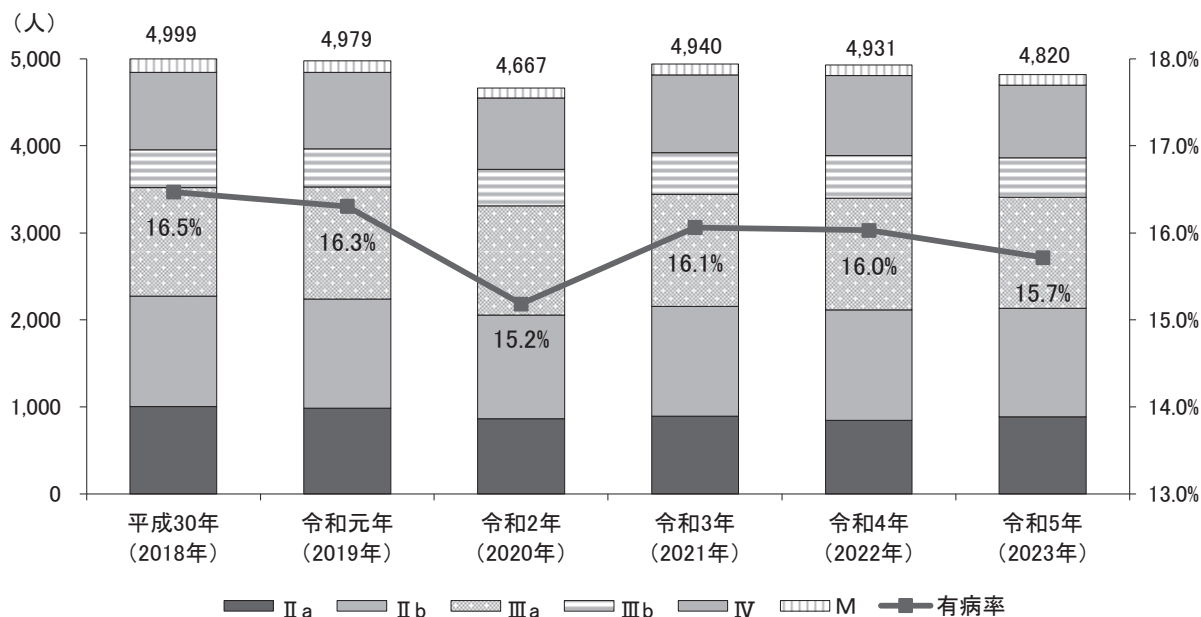
資料:厚生労働省「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」

● 認知症高齢者の推移

本市における認知症高齢者数は、平成30（2018）年から横ばいとなっています。  
有病率をみると、各年ともに15～16%台を推移しています。

日常生活自立度ごとに、平成30（2018）年と令和5（2023）年を比較すると、Ⅲa～Ⅲbはやや増加しており、Ⅱa～Ⅱb及びⅣはやや減少、Mは減少しています。

【認知症高齢者数の推移（津山市）】



（単位：人）

区分	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5(2023)年	
							対平成30年比
Ⅱa	1,004	984	863	890	846	883	87.9%
Ⅱb	1,271	1,253	1,193	1,268	1,268	1,250	98.3%
Ⅲa	1,246	1,293	1,257	1,284	1,285	1,280	102.7%
Ⅲb	436	435	419	477	488	451	103.4%
Ⅳ	887	879	817	898	922	835	94.1%
M	155	135	118	123	122	121	78.1%
合計	4,999	4,979	4,667	4,940	4,931	4,820	96.4%
有病率	16.5%	16.3%	15.2%	16.1%	16.0%	15.7%	95.4%
高齢者人口	30,354	30,539	30,739	30,757	30,765	30,670	101.0%

資料：住民基本台帳及び市介護保険システム（各年10月1日現在）

※有病率は、認知症高齢者数を該当年の10月1日時点の高齢者数で割っています。

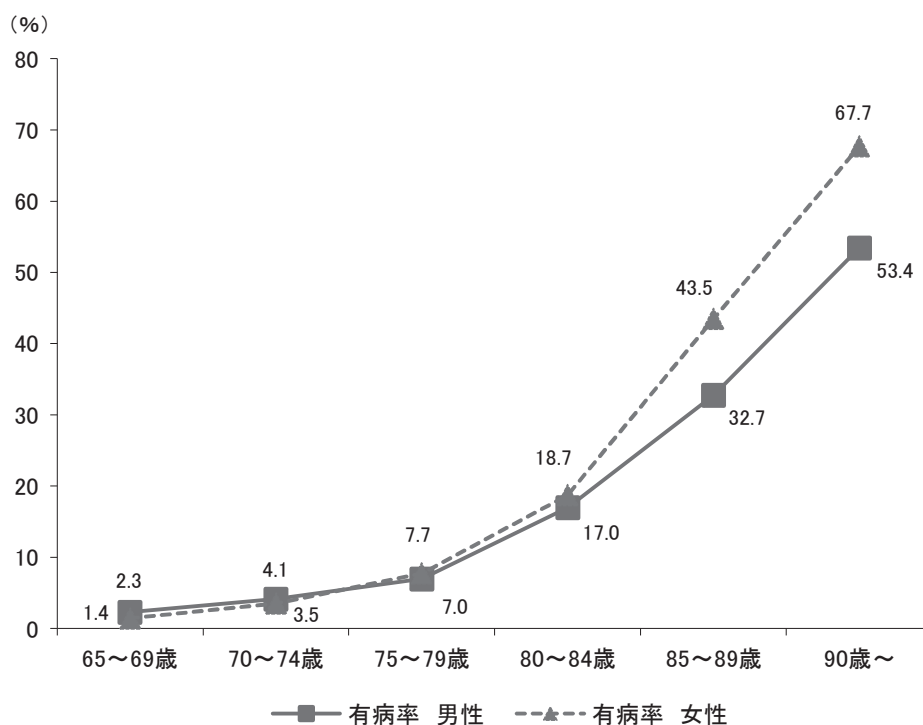


● 男女年齢別有病率の状況

男女別に有病率をみると、79歳までは男女ほぼ同率となっていますが、80歳からは女性の方が有病率が高くなっています。

年齢別に有病率をみると、男女ともに加齢とともに有病率が高くなり、80歳になると全体平均より有病率が高くなっています。

【男女年齢別有病率（津山市）】



区分		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～
有病率	男性	2.3%	4.1%	7.0%	17.0%	32.7%	53.4%
	女性	1.4%	3.5%	7.7%	18.7%	43.5%	67.7%
	合計	1.9%	3.8%	7.4%	18.0%	39.7%	64.3%

資料：住民基本台帳及び市介護保険システム（令和5年10月1日現在）

※有病率は、区分ごとに認知症高齢者数を令和5(2023)年10月1日時点の高齢者数で割っています。

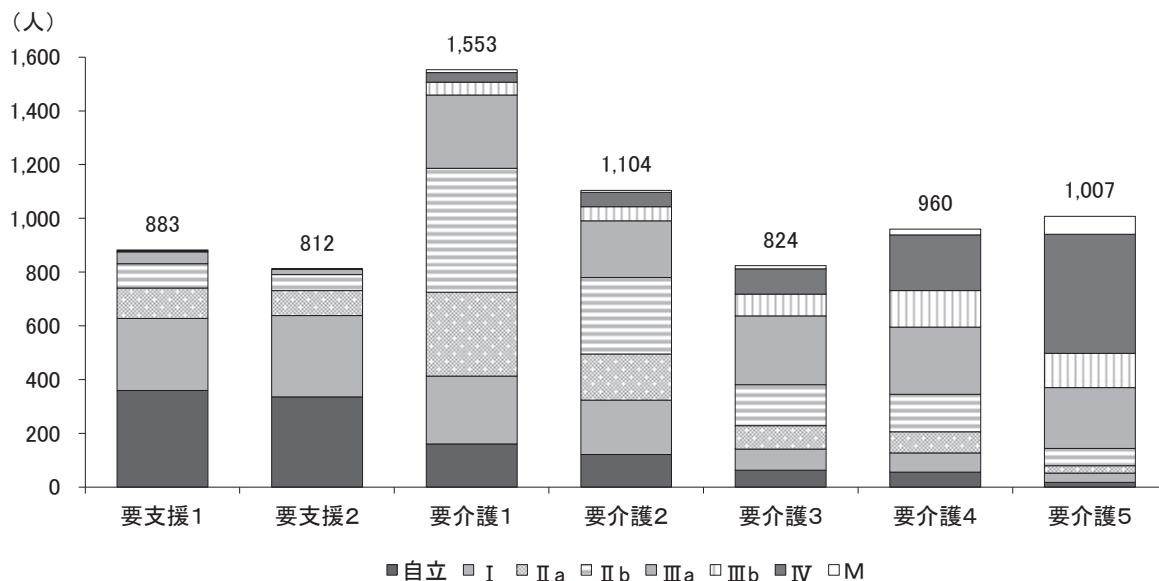
● 要介護度別の日常生活自立度の状況

要介護度別の日常生活自立度をみると、要介護度が上がるにつれて、認知症の症状が重くなっています。

認知症高齢者数をみると、要介護1が最も多くなっています。

認知症高齢者率は、要介護5では9割を超える人が認知症高齢者となっています。

【要介護度別日常生活自立度（津山市）】



(単位:人)

区分	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	計	認知症 高齢者数	認知症 高齢者率
要支援1	360	268	112	91	44	2	3	3	883	255	28.9%
要支援2	336	302	93	60	18	2	0	1	812	174	21.4%
要介護1	161	252	312	462	272	49	35	10	1,553	1,140	73.4%
要介護2	122	202	172	283	212	53	53	7	1,104	780	70.7%
要介護3	63	78	88	151	257	81	94	12	824	683	82.9%
要介護4	55	72	79	139	250	136	207	22	960	833	86.8%
要介護5	17	35	27	64	227	128	443	66	1,007	955	94.8%

資料:市介護保険システム(令和5(2023)年10月1日現在)

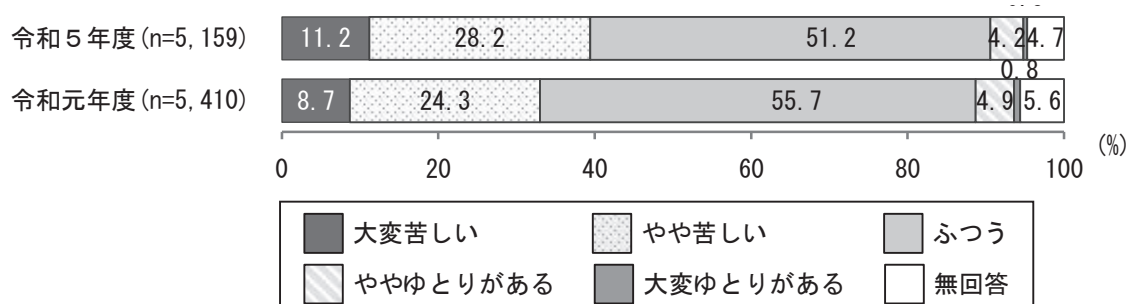
※認知症高齢者率は、各要介護度における認知症高齢者数を合計で割っています。

## 2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の主な結果

### 問1 あなたのご家族や生活状況について

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

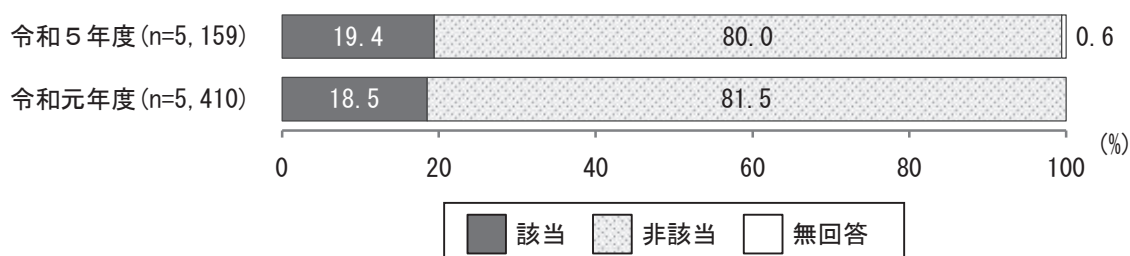
「やや苦しい」が28.2%、「大変苦しい」が11.2%となっています。前回調査と比べ、「大変苦しい」「やや苦しい」が上昇しています。



### 問2 からだを動かすことについて

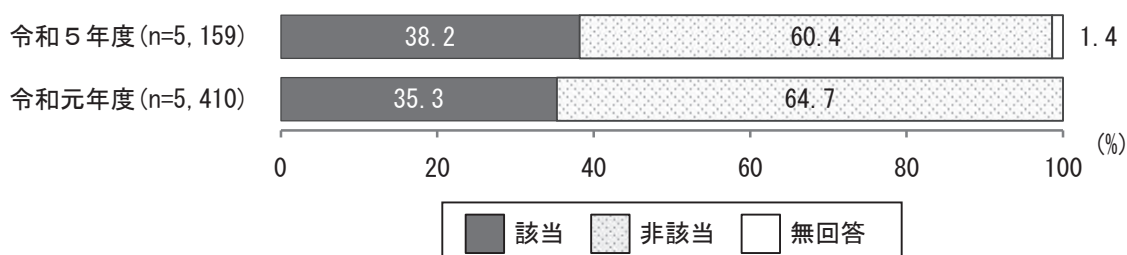
#### 【身体機能が低下している人】

「該当」が19.4%となっています。前回調査から特徴的な変化はありません。



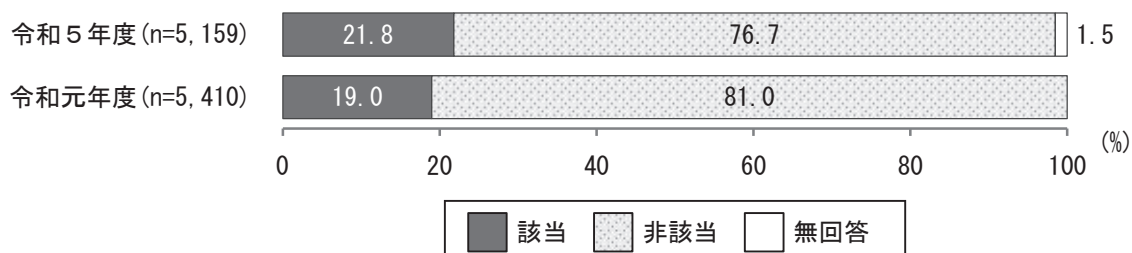
#### 【転倒リスクのある人】

「該当」が38.2%となっています。前回調査と比べ、「該当」する割合が上昇しています。



#### 【閉じこもり傾向のある人】

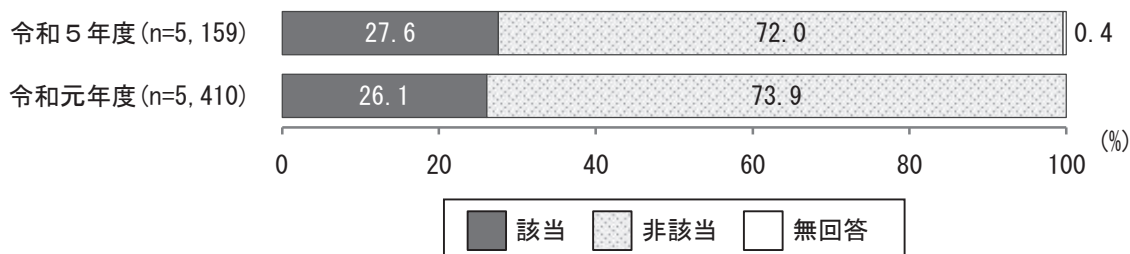
「該当」が21.8%となっています。前回調査と比べ、「該当」する割合が上昇しています。



### 問3 食べることについて

#### 【口腔機能が低下している人】

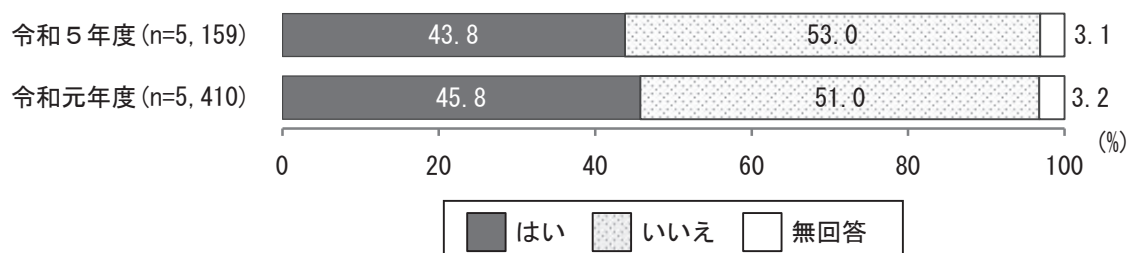
「該当」が27.6%となっています。前回調査から特徴的な変化はありません。



### 問4 毎日の生活について

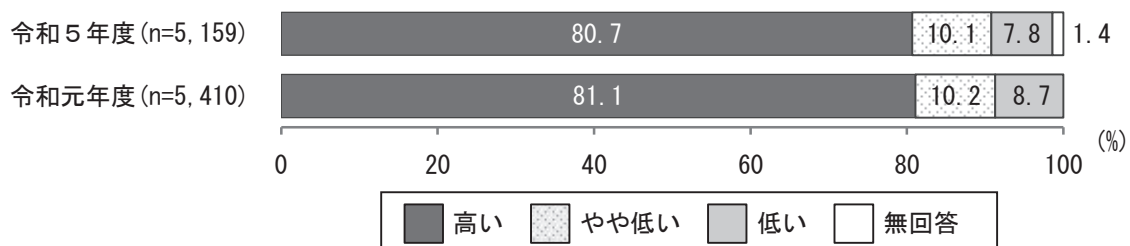
#### 物忘れが多いと感じますか。

「はい」が43.8%となっています。前回調査より「認知度低下」がみられる人が低下しています。



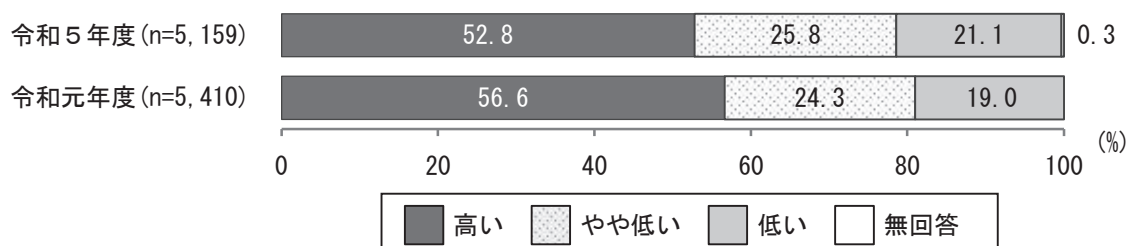
#### 【手段的自立度（活動的な日常生活を送るための能力）について】

「やや低い」が10.1%、「低い」が7.8%となっています。前回調査から特徴的な変化はありません。



#### 【知的能動性（情報を自ら収集して表現できる能力）について】

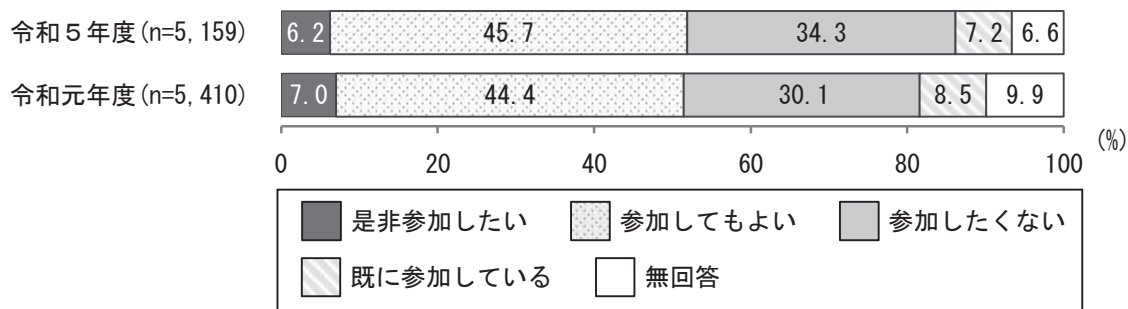
「やや低い」が25.8%、「低い」が21.1%などとなっています。前回調査と比べ、「やや低い」、「低い」に該当する割合が上昇しています。



問5 地域での活動について

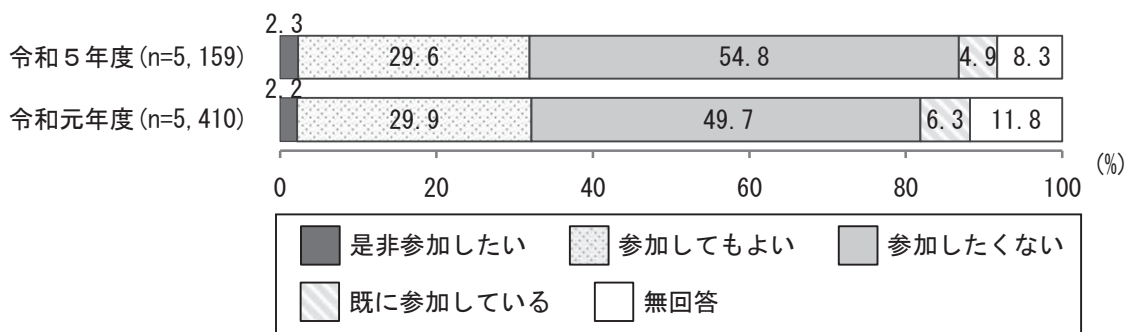
地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

「参加してもよい」が45.7%、「参加したくない」が34.3%、「既に参加している」が7.2%となっています。前回調査と比べ、「参加したくない」人の割合が上昇しています。



地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

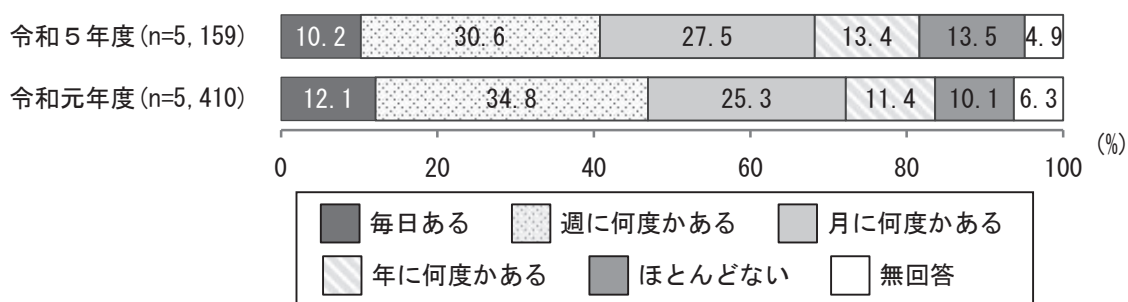
「参加したくない」が54.8%、「参加してもよい」が29.6%、「既に参加している」が4.9%となっています。前回調査と比べ、「参加したくない」人の割合が上昇しています。



問6 たすけあいについて

友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

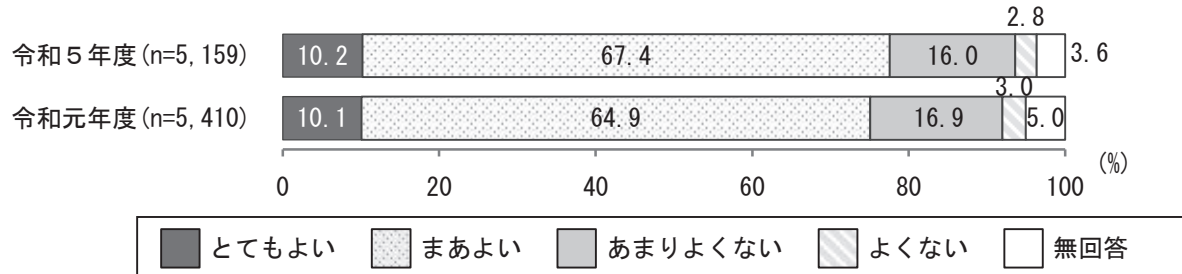
「毎日ある」と「週に何度かある」を合わせた割合が40.8%であり、「ほとんどない」が13.5%となっています。前回調査と比べ、頻度が多い回答の割合が低下しています。



## 問7 健康について

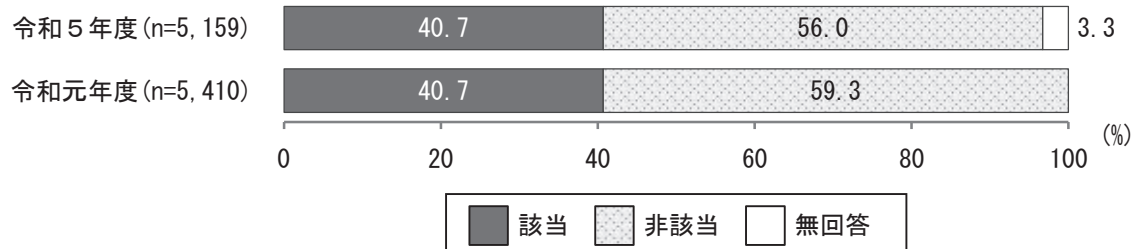
### 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

健康状態が『よい』（「とてもよい」+「まあよい」）人の割合が77.6%であり、前回調査と比べ、上昇しています。



### 【うつ傾向の人】

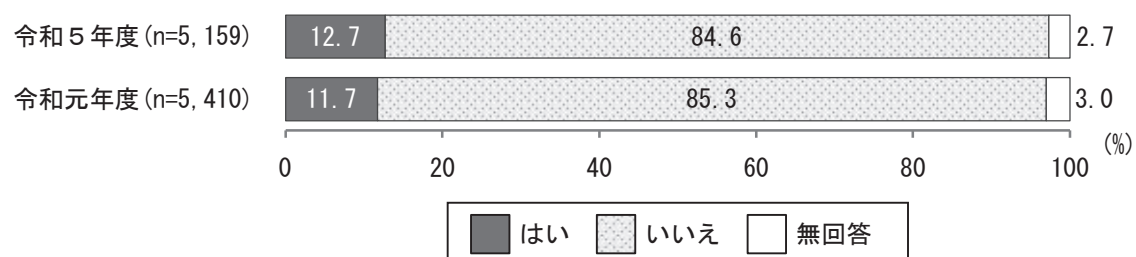
「該当」が40.7%となっています。前回調査から変化はありません。



## 問8 認知症にかかる相談窓口の把握について

### 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。

本人か家族に認知症の症状がある人がいる（「はい」）の割合が12.7%となっています。前回調査から特徴的な変化はありません。



### 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

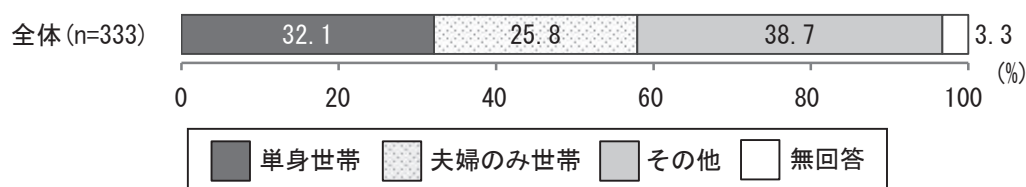
知っている人（「はい」）の割合が34.5%となっています。前回調査から特徴的な変化はありません。



### 3 在宅介護実態調査の主な結果

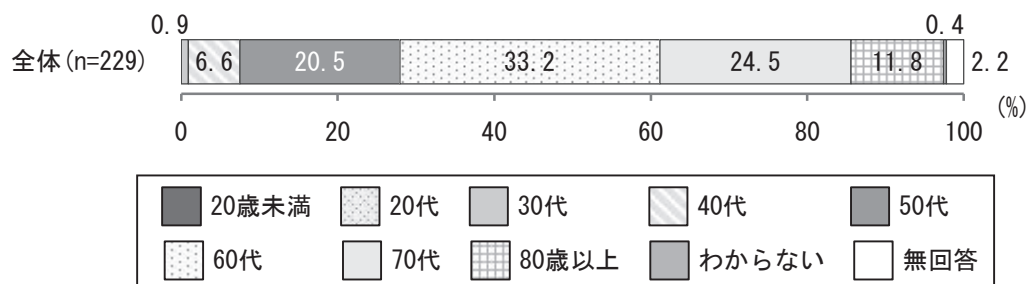
問 世帯類型について、ご回答ください。

「単身世帯」が32.1%、「夫婦のみ世帯」が25.8%となっています。



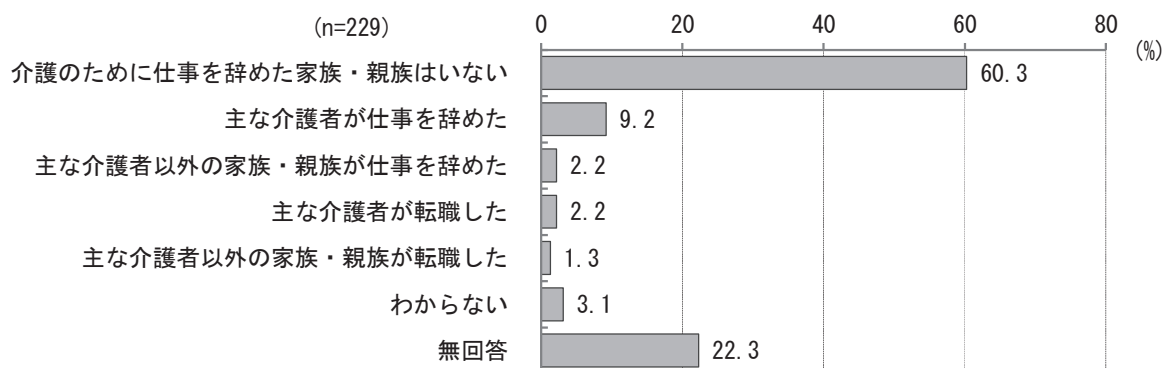
問 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。

「60代」が33.2%、70歳以上（「70代」+「80歳以上」）が36.3%と、高齢の人の割合が高くなっています。



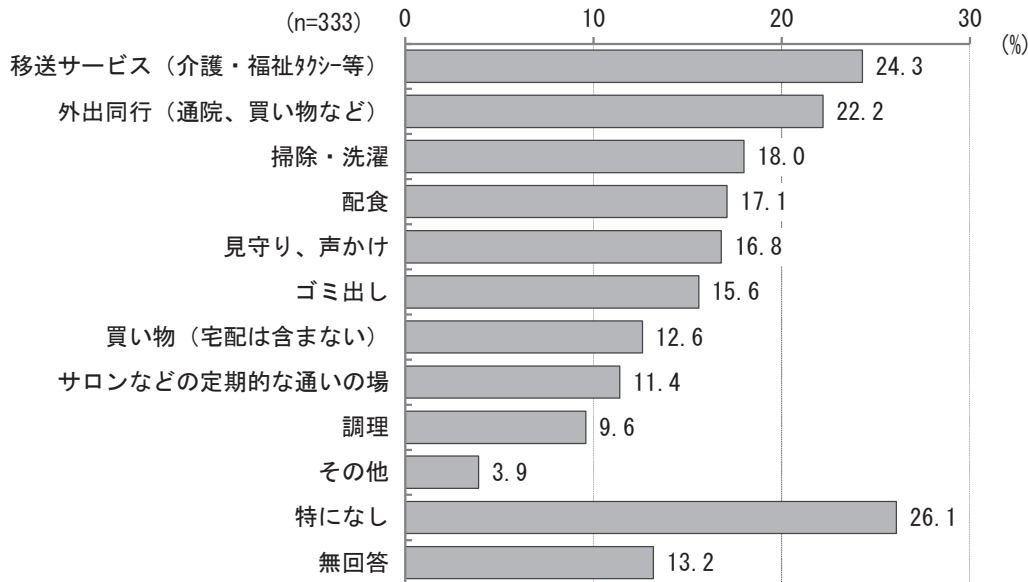
問 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。

「主な介護者が仕事を辞めた」が9.2%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた」が2.2%となっています。



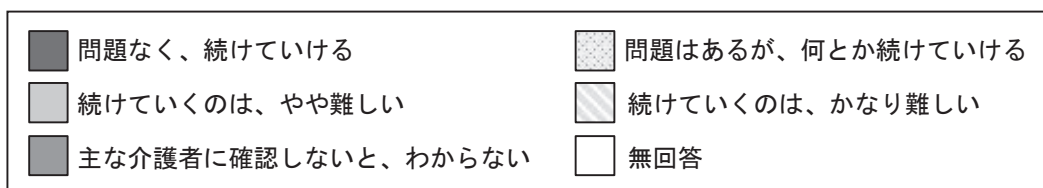
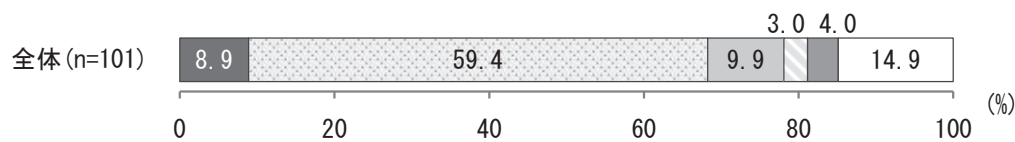
**問 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。**

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が24.3%で最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が22.2%、「掃除・洗濯」が18.0%などとなっています。



**問 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。**

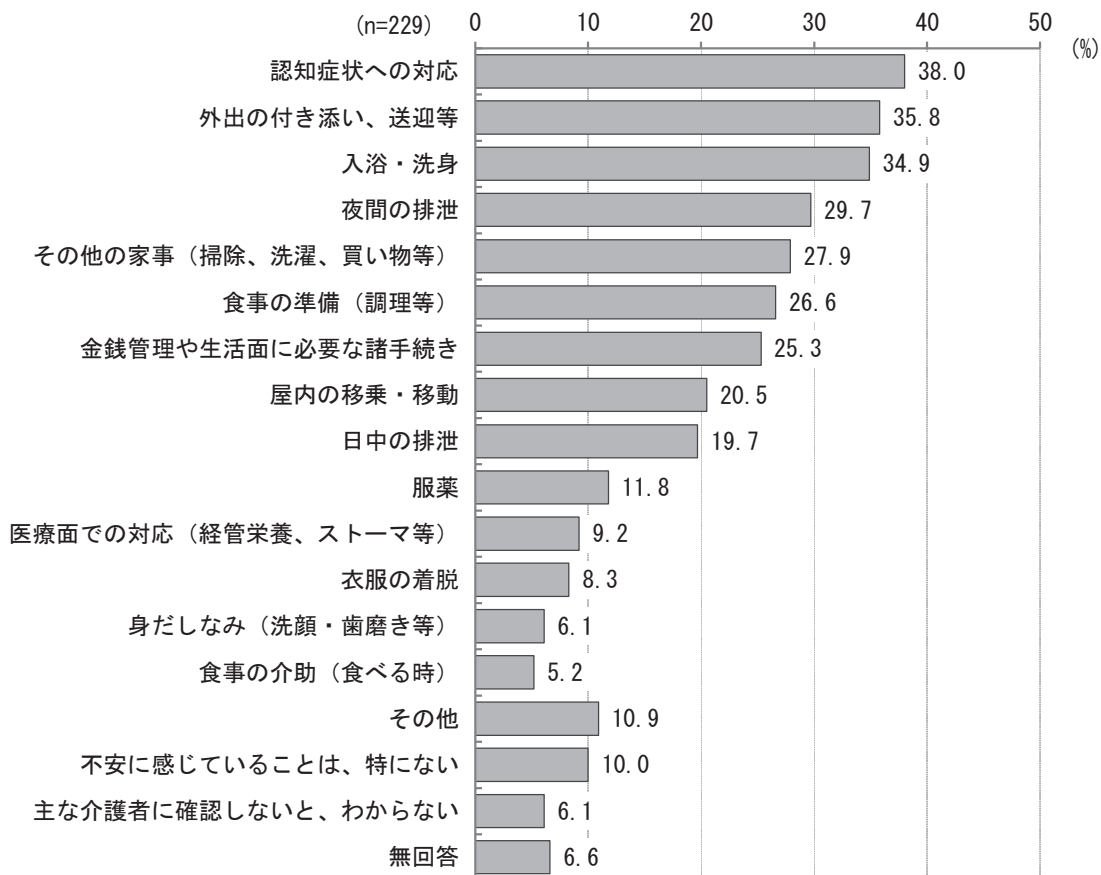
「続けていくのは、やや難しい」が9.9%、「続けていくのは、かなり難しい」が3.0%となっています。





**問 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。**

「認知症状への対応」が38.0%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が35.8%、「入浴・洗身」が34.9%などとなっています。



## 4 地域包括ケアシステムの構築の現状と評価

注)新型コロナウイルス感染症対策の影響により、令和3(2021)年度及び令和4(2022)年度の実績値は大幅に減少している事業があります。

### (1) 地域包括ケアシステムのネットワーク強化

#### ① 地域包括支援センターの機能強化

地域包括支援センターの機能強化のために、市及び地域包括支援センターで連絡会をもち、事業実施状況の評価を行うとともに、職員の配置・体制の見直し、職員の育成や確保を図っています。

#### ② 地域包括ケア会議の充実

地域包括ケア会議は、個別ケースの課題分析や支援の積み重ねを通じて、地域に共通する課題や支援策を明らかにし、多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築や地域づくりに活用することが求められています。津山版地域包括ケアシステムの実現のために「小地域ケア会議」と、「地域ケア個別会議」が連携して、より効果的に機能させていくことが重要です。

小地域ケア会議では地域住民と専門職等が協議・検討、学びを重ねて地域課題を明らかにし、できる地域課題への対応策を検討しました。協議を通じて、地域関係者等が連携・協働し、各支部ならではの住民主体による地域づくり、社会資源の発掘・開発の取組が展開されています。津山市全域の地域課題の抽出、その課題を地域づくり、政策形成につなげることと、小地域ケア会議未設置支部へ積極的に働きかけていくことが必要です。

地域ケア個別会議は、高齢者個人の生活課題に対して単に既存サービスを提供するだけでなく、その課題の背景にある要因を会議において検討し、個人と環境に働きかけることによって自立支援に向けたケアマネジメント支援を行っています。必要な地域資源の開発や地域課題の分析のために、生活支援コーディネーターも出席しています。医師が助言者として参加するため、令和5(2023)年度より、月2回の開催に変更しました。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
地域ケア個別会議	実施回数	53回 (247事例)	45回 (152事例)	37回 (83事例)	
小地域ケア会議	設置数	32支部	34支部	35支部	

### ③ 地域包括支援センターを中心とした相談体制の充実

地域の身近な高齢者の総合相談窓口として、必要に応じ家庭訪問を行い、介護保険制度、介護予防、権利擁護などの保健・医療・福祉の総合的な相談や関係機関との連絡調整を行っています。

### ④ 広報・情報提供の充実

市ホームページ、広報紙、出前講座や、高齢者に身近な地域包括支援センター、ケアマネジャー等を通じてきめ細やかな情報提供を行っています。また、行政サービスの各窓口においても、高齢者が利用しやすい体制づくりに努めています。加えて、わかりやすさに配慮した、介護保険サービスの説明パンフレットを毎年度更新して、発行しています。

一方で、昨年度実施したアンケートでは、「認知症に関する相談窓口を知らない」の回答が63.1%あり、より多くの住民へ情報を周知する必要があります。

### ⑤ 地域包括ケアシステムを支える人材確保及び資質向上への支援

ACPに関する知識を習得し、本人の意思を尊重した医療・ケアが提供できるように、本人・家族・医療ケアチームとの調整を行うACPファシリテーターの養成や資質向上・活動推進を図る研修会を開催しました。各医療機関・介護施設等にファシリテーターが配置されていないため、徐々に増やしていくとともに、総論だけでなく実践するための研修を行う必要があります。

また、身体機能の低下を防ぎ、要介護状態に至る可能性を減らすため、津山市版のフレイル対策事業（栄養編）を市民及び支援者に対して実施しました。医師・栄養士のフレイル対策に関する役割は整理できましたが、多職種についても支援者としての役割を整理していく必要があります。

## (2) 在宅医療・介護連携の推進

### ① 在宅医療と介護の提供体制の構築推進

この事業は、支援が必要な高齢者の住み慣れた地域における生活を支援する地域包括ケアシステムを構築するための事業のひとつとして、介護保険法により市町村が主体となって取り組むことが求められています。

平成 27（2015）年度までは岡山県が津山市医師会に委託して「在宅医療連携推進事業」として取組が進められてきましたが、平成 28（2016）年度からは津山市が引き継ぎ、「津山市在宅医療・介護連携推進協議会」を中心に、地域の医療・介護関係者の協力を得ながら、事業に取り組んでいます。

#### ● 地域の医療・介護の資源の把握

津山市における社会資源の調査と情報発信を行いました。医療機関・事業所のサービス提供体制等の調査を実施し、最新情報を収集しました。調査結果は、津山市及び津山市医師会ホームページに掲載しました。

今後は社会資源の利用実態の分析をし、更に必要とされる情報を整理していく必要があります。

また、社会資源情報の活用促進に向けた情報発信のあり方を整理していく必要があります。

- 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

各職種の代表と行政による代表者会議、役員会、3つの専門部会を開催しました。

	第7期計画	第8期計画	
	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
在宅医療・介護連携推進協議会	2回	2回	3回
地域包括ケア検討部会	3回	3回	3回
情報共有部会	3回	3回	2回
啓発・研修部会	3回	3回	5回

令和5（2023）年度には、事業内容を見直し、地域包括ケア検討部会、事業推進部会、啓発・研修部会に再編しました。

- 医療・介護関係者の情報共有の支援

医療介護従事者間の連携を図るための情報共有ツールの構築、基本情報の情報共有について検討・整理しています。津山市入退院支援ルールが情報共有ツールとして機能しているかを検証し、継続的に見直しの必要性を検討していく必要があります。

- 相談支援

地域の医療・介護関係者、地域包括支援センター等からの、在宅医療、介護サービスに関する事項の相談を受け、関係機関につなげています。支援が必要なケースは、関係機関と情報共有しながら内容検討、サービス利用へとつなげていますが、複合的な課題を持つケースも増加する中、関係部署間の横断的な相談体制を構築し、多職種との連携体制を構築する必要があります。

### (3) 地域共生社会の実現

#### ① 地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進

高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らすため、地域包括支援センターを中心とした制度横断的なネットワーク、小地域ケア会議により、地域包括ケアシステムの構築を推進しています。

- 地域の交流の場の確保

市民生活に豊かな感性と活力をもたらすことを目的として、市内にふれあいサロンを設置し高齢者相互のふれあいと世代を超えた交流の促進を図っています。施設の運営方法等について協議を重ねながら、地域支援の環境づくりや高齢者等の地域交流拠点としての機能も引き続き担っていきます。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
ふれあいサロン	延べ利用人数	14,087人	12,415人	16,125人	

#### ② 生活支援サービスの体制整備

生活支援サービスの充実に向けて、生活支援の担い手となる「生活支援サポーター」の養成を行い、高齢者の社会参加や支え合いの仕組みづくりに取り組んでいます。

- 生活支援サポーターの養成

生活支援サポーター養成講座を、各実施団体に実施できる体制づくりを推進してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響等により、訪問型サービスやその他の活躍の場が減少したため、実施団体はなく、サポーター養成が進んでいません。現在登録しているサポーターの活動支援として、生活支援コーディネーターと協力し、令和4(2022)年度に研修会を実施しました。養成講座のカリキュラム内容が概ね20時間程度の講義及び実習などであり、実施しやすい内容とするため見直しが必要です。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
生活支援サポーター事業	実施圏域数	8圏域	8圏域	8圏域	
	累計(登録)人数	247人	218人	193人	

- 生活支援コーディネーター

生活支援コーディネーターは、1層生活支援コーディネーター1名、2層生活支援コーディネーターを日常生活圏域毎（8圏域）に1名の合計9名を配置しています。新型コロナウイルス感染症の影響等により、1層協議体は令和3（2021）年度、令和4（2022）年度は開催できていなかったため、令和5（2023）年度は再開に向けた検討を行い、研修や事業の企画に取り組んでいます。2層協議体は加茂・阿波圏域と勝北圏域で設置されています。

- 情報共有・連携強化

毎月定例で、生活支援コーディネーター会議、市の担当者との情報共有の場を設けています。生活支援コーディネーターは、令和4（2022）年度からは地域包括支援センターと情報共有会を毎月行い、令和5（2023）年度は、地域包括支援センターのプランナーとお互いの業務や役割の理解を目的とした研修会を実施しました。

### ③ 高齢者が活躍できる地域づくり

- シルバー人材センターへの支援

シルバー人材センターが行う、ワンコインサービスや派遣事業などの活動を支援しています。介護や子育て分野など、人手不足となっている分野の人材を確保するため、また高齢者と社会とのつながりをつくり、高齢者の就労機会の提供と社会参加を促進するためにも、今後も継続的な支援が必要です。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
シルバー人材センター 一会員数	男性	299人	317人	312人	
	女性	147人	158人	162人	
	合計	446人	475人	474人	

- 老人クラブ活動への支援

老人クラブでは、『仲間づくり、健康づくり、生きがいづくり』活動に自主的、主体的に取り組んでおり、当市ではこの活動を支援しています。支援を通じ地域の特性を生かした魅力ある地域社会の創造と、行政や他団体と連携による地域福祉の推進に努めています。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
老人クラブ活動	クラブ数	171クラブ	164クラブ	161クラブ	
	会員数	8,062人	7,508人	7,184人	

## (4) 安全な生活環境の整備

### ① 安全で快適な生活環境の整備

人にやさしいまちづくり条例に基づき、公共建築物の都市施設整備を推進しています。また、民間施設の整備は、人にやさしいまちづくり条例に基づき指導・助言を行い、審査結果通知書を発行しています。

### ② 高齢者の居住安定への支援

建築専門家によるリフォーム、新築、増改築、建築基準法等に関することについて、無料相談を開催しました。

### ③ 高齢者の交通施策の充実

重複路線の解消や運行ルートの見直し、バス停名称の変更など、高齢者が利用しやすい地域公共交通体系の整備に努めました。利用者の少ない地域を効率的にカバーするために、各種運行形態の特徴を踏まえた上で、地域の特性や利用状況にあった交通体系の研究に取り組み、交通事業者のない地域において、日常生活に最低限必要な移動手段の確保について研究を行いました。

また、年齢に応じた内容での交通安全教育を行うとともに、夜間の交通事故防止のために、夜光反射材の配布を行いました。

さらに、高齢者によるペダル踏み間違いなどによる交通事故を防止するために、急発進防止装置の設置費用に補助を行いました。

### ④ 火災の予防対策

火災予防運動を行うとともに、防火意識の普及として市広報媒体を通じた啓発を行いました。

### ⑤ 災害時の支援体制の整備

「避難行動要支援者名簿」の啓発・周知を行うとともに、必要に応じて要支援者名簿への登録を働きかけ、名簿情報を更新しました。また、民生委員、町内会による自主防災・防犯組織、消防団等の関係機関や介護老人福祉施設等避難所として協定を締結している施設との連携強化を進めました。



## 5 健康づくりの推進の現状と評価

### 評価

◎:目標値に達した(100%以上)

○:目標値に達していないが順調に改善(50~99%改善)

△:目標値に達していないが改善している(1~49%改善)

×:横ばいもしくは悪化(0%以下)

—:評価困難

※策定時に数値がない項目は中間評価値と比較した

### (1) 栄養・食生活

低栄養やフレイルを予防する食生活について、こけないからだ講座等で健康教育を行いました。また、令和4(2022)年度には、津山市在宅医療・介護連携推進協議会等と連携したフレイル予防講座において、健康教育・健康相談を実施するとともに、「食品の多様性チェックリスト」活用の検討や講座内容をまとめたDVDの作成に携わりました。

フレイルの認知度を上げ、栄養・身体活動・社会参加の三本柱を意識した日常生活の工夫について広く普及啓発していくことが必要です。

第2次健康つやま21における目標		令和4(2022)年度末目標	実績	評価
主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数が増える	20歳以上	15.5回/週	13.2回/週	×

### (2) 身体活動・運動

こけないからだ講座・ふらっとカフェの参加者が、コロナ禍でも地域活動や社会とのつながりを維持できるよう、不参加者の把握、交流会の実施等によるグループ活動支援を行いました。また、ノルディックウォークの体験会を継続して実施し、令和3(2021)年度は3グループ、令和4(2022)年度は9グループが参加しました。さらに、令和3(2021)年度から高齢期男性を中心とした新たな取組として、野菜作り活動を開始しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、外出や人との交流を控えるようになった高齢者が増加しており、ひきつづき、高齢者の地域交流の促進、身体機能の維持向上に向けた支援が必要です。また、令和4(2022)年度の津山市健康基礎調査によると、市民のフレイルの認知度が低い(「言葉も意味も知らなかった」が66.8%)ため、こけないからだ講座のグループ活動支援と、参加者がフレイル予防に関する知識を得て実践できる仕組みづくりが必要です。

第2次健康つやま21における目標		令和4(2022)年度末 目標	実績	評価
日常生活を活発に送っていると感じる人が増える	60歳以上	80.0%	69.2%	×
健康情報を気軽に入手できると感じる人が増える	60歳以上	50.0%	79.9%	◎
こけないからだ講座に参加している人が増える	60歳以上	220か所以上 4,200人以上	211か所 3,008人	×
運動習慣者が増える	60歳以上	50.0%	43.4%	△
足腰に痛みのない人が増える	60歳以上	腰痛 20.0%以下	40.1%	×
		手足の関節の痛み 15.0%以下	37.3%	×

### (3) 歯と口の健康

予防歯科や定期受診の重要性、歯周病の生活習慣病との関連について周知啓発を行いました。また、歯周病検診受診率向上に向けて、対象者への通知や、対象の未受診者へ勸奨ハガキを発送し受診勧奨を行いました。歯周病検診の実施や8020運動の浸透、歯科への定期受診の必要性の啓発等により、歯及び口腔の健康への関心が高まり、歯みがきの頻度や口腔ケア意識、残存歯数の増加が見られたと考えられます。

高齢期はかかりつけの歯科医院があり、定期受診ができていますが、青壮年期は定期的な受診ができていない状況です。歯周病検診受診者についても、令和4(2022)年度の受診率は1.06%で、前年度の1.02%より増加は見られますが、受診者は少なく広く啓発をしていく必要があります。

第2次健康つやま21における目標		令和4(2022)年度末 目標	実績	評価
歯の健康に気をつけている人が増える	60歳以上	60.0%	68.3%	◎

## (4) たばこ・アルコール

世界禁煙デーやアルコール関連問題啓発週間にチラシやポスターを配布し、啓発を行いました。喫煙は肺がんや心疾患、脳血管疾患の発症だけでなく、周囲の人にも様々な影響を及ぼすため、引き続き、喫煙による身体への影響（加熱式たばこ含む）や、受動喫煙について啓発していく必要があります。お酒を飲まない人が増えている一方、適量より多く飲む人は増加していました。多量飲酒は生活習慣病のリスクを高めるため、適切な飲酒量の啓発が引き続き必要です。

第2次健康つやま21における目標		令和4(2022)年度末目標	実績	評価
健康のために禁煙できる人が増える (喫煙をやめたい人がやめる)	60歳以上	(喫煙率)12.0%	12.0%	×
お酒の適量(1合未満)が分かり、 楽しくお酒を飲む人が増える	20歳以上	増加	52.2%	×

## (5) 健康管理

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い感染予防に留意しながら健（検）診を実施していましたが、受診控えとなりコロナ禍以前の受診率には及ばない状態です。コロナ禍の社会活動の制限などによる生活習慣の変化は、全世代の体重増加や血糖、血圧コントロールの悪化にも影響がみられています。コロナ禍による生活習慣の乱れが、今後健（検）診データ等にどう影響していくか、推移の確認と対策が必要です。

第2次健康つやま21における目標		令和4(2022)年度末目標	実績	評価	
市が実施するがん検診を受ける人が増える	胃がん検診	40～69歳	30.0%	10.9%	×
	肺がん検診	40～69歳	30.0%	23.9%	×
	大腸がん検診	40～69歳	30.0%	22.8%	×
	乳がん検診	40～69歳	30.0%	18.4%	×
	子宮頸がん検診	20～69歳	30.0%	23.9%	△
特定健康診査を受ける人が増える	40～74歳	60.0%	34.9%	△	
特定保健指導を受ける人が増える	40～74歳 (動機付け)	60.0%	18.0%	×	
血糖コントロールができて いる人の割合が増える	40～74歳	99.5%	97.9%	×	
糖尿病性腎症による新規 透析導入者が減る	40～74歳	35人	13人	◎	

## (6) 休養・こころの健康づくり

こころの健康づくりに関する知識の普及のため、自殺予防週間や自殺対策強化月間に合わせ市民に届く方法やテーマを検討しながら普及啓発に努めました。高齢者向けの支援先情報の周知リーフレットを作成し、市内33か所に設置するなど相談先の周知を行い、相談のあった人に対しては保健師による支援を行っています。相談や助けを求めることへのためらいを感じる人の割合は男性が高く、正しい知識や相談窓口の周知とともに、地域で身近な人のこころの変調に気づき支え手になることのできるゲートキーパーを増やすことや、関係機関との連携が必要です。

第2次健康つやま21における目標		令和4(2022)年度末 目標	実績	評価
一人で悩まず相談できる人が増える	60歳以上	75.0%	72.1%	○
自分にあつた気分転換ができる人が増える	60歳以上	80.0%	77.7%	○
睡眠により休養を十分に取れている人が増える	60歳以上	80.0%	72.7%	△
身近に集える場所があり、周囲の人との交流を図ることのできる人が増える	60歳以上	増加	ふれあいサロン: 142か所 こけないからだ講座: 211か所 3,008人	×
こころの変調に気づき、支え手になることのできる人が増える	60歳以上	80.0%	66.6%	△

## 6 地域支援事業の推進の現状と評価

### (1) 介護予防・日常生活支援総合事業

#### ① 一般介護予防事業

- めざせ元気!!こけないからだ講座

新型コロナウイルス感染症の影響により、活動自粛と再開を繰り返しながらも、5か所で新規の実施となりました。活動の継続支援として、令和5(2023)年度より各グループの訪問希望の内容を調査し、個々に合わせた訪問支援を行いました。参加者数の減少やリーダーの担い手が不足しており、解散する地域があることから、既存の講座への支援の充実が必要です。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
めざせ元気!! こけないからだ 講座	箇所数	214か所	213か所	211か所	211か所
	実人数	3,633人	3,176人	3,008人	3,008人
	延人数	69,930人	56,437人	70,623人	70,623人

- ふらっとカフェ

新型コロナウイルス感染症の影響により、活動自粛と再開を繰り返していましたが、令和3(2021)年度は交流会を開催し、活動継続に向けての働きかけを行いました。広報紙での周知の結果、問合せの件数は増加しており、2か所で新規の実施となりました。通いの場としての問い合わせは増え、事業説明や実施グループの見学同行等の支援を行っていますが、立ち上げまでにはいたっていないケースがあるため、ニーズを把握して支援方法を検討する必要があります。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
ふらっとカフェ	箇所数	27か所	28か所	29か所	29か所

- 地域リハビリテーション活動支援事業

地域ケア個別会議の参加、通所サービス利用前のプラン作成者との同行訪問など、リハビリ専門職の視点で、その人らしい自立した日常生活を営むための助言により、自立支援型ケアマネジメントの質の向上を図りました。リハビリ専門職による訪問支援が複数あり、整理する必要があります。

		第7期計画	第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
地域ケア個別会議	回数	53回(247事例)	45回(152事例)	37回(83事例)
リハビリ専門職 同行訪問	回数	-	41回	45回

- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施

健康増進課、医療保険課、高齢介護課の3課で、令和5(2023)年度から「健康長寿はつらつ事業」として事業を開始しました。令和5(2023)年度のポピュレーションアプローチでは、南部圏域のこけないからだ講座6か所で、保健師、管理栄養士が栄養に関する健康教育・健康相談を実施しました。令和6(2024)年度以降、対象圏域を拡大し、早期に市内全域で実施するため、人員体制や健康教育の内容等を検討する必要があります。

## ② 介護予防・生活支援サービス事業

要支援者が要介護状態となることを予防し、一人ひとりが活動的で生きがいのある生活を送ることができるように、生活上の多様な支援ニーズに答えるサービスの提供を目指して実施しています。

### ア 訪問型サービス

要支援者等に対し、掃除、洗濯等の日常生活上の支援を提供しています。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和4(2022)年度
介護予防訪問サービス (現行型訪問サービス)	事業所数 <sup>a)</sup>	24か所	25か所	25か所	25か所
	延べ利用人員	2,107人	2,075人	2,053人	2,053人
生活支援サポーター訪問サービス (住民参加型訪問サービス)	事業所数	8か所	8か所	7か所	7か所
	延べ利用人員	293人	260人	206人	206人
専門職応援訪問サービス (短期集中型訪問サービス)	事業所数	直営	直営	直営	直営
	延べ利用人員	6人	9人	4人	4人

注釈 a) 年度末現在で、市外も含め津山市が指定をしている事業所数。

### イ 通所型サービス

要支援者等に対し、機能訓練や集いの場など日常生活上の支援を提供しています。社会福祉法人、NPO、民間事業者等による多様なサービスの創設を目指しています。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和4(2022)年度
介護予防通所サービス (現行型通所サービス)	事業所数 <sup>a)</sup>	40か所	36か所	36か所	36か所
	延べ利用人員	874人	810人	803人	803人
ふれあい交流通所サービス (基準緩和型通所サービス)	事業所数 <sup>a)</sup>	11か所	10か所	7か所	7か所
	延べ利用人員	372人	375人	665人	665人
元気いきいき通所サービス (短期集中型通所サービス)	事業所数 <sup>b)</sup>	8か所	9か所	6か所	6か所
	延べ利用人員	621人	646人	419人	419人

注釈 a) 年度末現在で、市外も含め津山市が指定をしている事業所数。

b) 年度末現在で、委託契約事業所数。

## (2) 認知症施策の推進

認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた住まいや地域で心豊かに安心して生活が続けられるまちを目指し、認知症施策を推進しています。

### ① 認知症についての知識・理解の向上

認知症に対する知識・理解の向上を図るため、認知症の人や家族を見守る応援者を養成する認知症サポーター養成講座、認知症キャラバン・メイト養成講座を開催しています。また、認知症月間である9月に、啓発事業を地域の事業所と協力して展開するとともに、認知症フォーラムを開催し、当事者を理解し寄り添える支援者を醸成しています。

令和元（2019）年度に、地域の飲食店等の協力のもと、住民への認知症の理解啓発と本人の社会参加を進める取組として企画・開催した「注文をまちがえるかもしれないレストラン」は、新型コロナウイルス感染症の影響で休止していましたが、令和5（2023）年度は再開しています。

事業		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
認知症サポーター養成講座	実施回数	26回	27回	35回	
	受講人数 (年度別養成数)	613人	642人	719人	
認知症キャラバン・メイト養成講座	実施回数	0回	0回	1回	
	受講人数 (年度別養成数)	0人	0人	23人	
世界アルツハイマーデー 認知症フォーラム	実施回数	1回	0回	1回	
	参加人数	80人	0人	64人	
パネル展示	設置箇所数	7か所	7か所	7か所	
オレンジウオーク	実施箇所数	0か所	1か所	1か所	



## ② 認知症の相談・支援体制の整備

津山市地域包括支援センターに認知症相談窓口を開設し、相談支援体制を整備しています。また、令和元（2019）年度からは、若年性認知症相談日を新たに設けて支援体制を充実させています。ニーズ調査において、認知症の相談窓口の認知度は34.5%と低くなっており、必要な人へ情報が届くよう周知方法を検討し、周知に努めています。

また、平成29（2017）年度に策定した認知症ケアパスを令和元（2019）年度に内容の更新を行い、市民や関係機関等に配布を継続しています。

認知症への専門的な対応が早期に必要な人には、サポート医1名、保健・福祉専門職3名で構成する認知症初期集中支援チームにおいて、毎月チーム員会議を開催し、支援の方向や経過の確認を行っています。取組を更に推進するためには、職員の資質向上及び相談と支援の連携を深めて、認知症の初期段階の支援をより充実させていく必要があります。

また、令和3（2021）年、4（2022）年度にはチームオレンジの構築に向けて、小規模多機能型居宅介護事業所を中心に情報交換会等を開催するなど、働きかけましたが、構築までには至りませんでした。今後は、社会資源の活用等地域を巻き込みながら、より良い方向性を目指して検討していく必要があります。

		第7期計画	第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
認知症初期集中支援チーム	新規支援ケース数	26人	17人	14人

### ③ 見守りシステムの構築

地域の企業や事業者と「津山市見守り協定(つやま見守ろうねット)」を結び、業務の中で地域の高齢者等を見守り、異常の早期発見につなげています。協定事業者の連絡会を定期的を開催し、ネットワークの強化を図りました。

また、認知症等で道に迷う恐れのある高齢者を支援することを目的に「認知症高齢者等SOSメール事業」を実施しています。令和4(2022)年度には、実際に行方不明になった人についてのメールを配信した事例が2件発生しており、内1件はメールを見た協力者が本人を発見し保護することができました。

さらに、認知症に関する正しい理解の啓発、地域ぐるみの対応力向上を図るため、模擬訓練を開催し、地域ぐるみの支援体制の構築を図っています。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
つやま見守ろうねット	協定事業者数	67事業所	68事業所	68事業所	
認知症高齢者等SOSメール事業	事前登録者数	32人	47人	56人	
	協力者数	4,886人	5,718人	6,254人	
認知症あったか声かけ模擬訓練	開催回数	0回	1回	6回	

### ④ 認知症の人やその家族への支援

認知症の人やその家族をはじめ認知症に関心のある人が集まり、情報交換や交流をする場である「認知症カフェ」の活動を支援し、集いの場所の設定を進めています。令和4(2022)年度末時点で6か所の認知症カフェが活動していますが、利用したくても移動手段がなく利用できない認知症の人もあり、課題となっているため、今後も認知症の人の状況把握や地域のニーズを確認しながら、新規立ち上げや活動の支援を行っていきます。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
認知症カフェ	設置数	5か所	5か所	6か所	

### (3) 包括的支援事業

- 総合相談支援業務

支援を必要とする高齢者及び家族等に対して、介護保険サービスにとどまらず、適切なサービス、支援機関又は制度の利用につなげています。

		第7期計画	第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
総合相談	件数	8,380件	9,150件	7,824件
内訳	来所	837件	956件	822件
	電話	4,494件	5,170件	4,275件
	訪問	2,722件	2,741件	2,434件
	その他	327件	283件	293件

- 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

介護支援専門員同士のネットワークづくりと地域包括支援センターとの効果的な協働体制づくりのため情報交換会を開催しました。

		第7期計画	第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
情報交換会	実施回数	2回	1回	3回
	参加者数	100人	59人	173人

### (4) 任意事業

高齢者の地域における自立した日常生活を支援するため、津山市の特性に応じた任意事業として次の事業を推進しています。

		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
食の自立支援事業 (配食サービス)	利用者数	12人	23人	24人
	配食数	1,965食	1,762食	2,368食
家族介護教室	開催回数	2回	4回	4回
	受講人数	48人	67人	66人
家族介護慰労金 支給事業	支給件数	1件	1件	1件
成年後見制度 利用支援事業	対象者数	27人	29人	41人

## 7 高齢者福祉サービスの現状と評価

### (1) 高齢者の日常生活支援

- 生活管理指導短期宿泊事業(ショートステイサービス)

居宅での見守りが困難となった場合に、住民税非課税世帯に属する高齢者を、一時的に特別養護老人ホーム等に入所させ、生活管理指導等を行って要介護状態への進行を予防するなど、高齢者及びその家族の福祉の向上を図る事業です。多様化する高齢者の生活様式や高齢者を取り巻く環境の変化から、今後は需要の増加が見込まれます。

- 緊急通報装置の貸与

在宅の高齢者で、緊急時の連絡が不安な人に対して、緊急通報装置を貸与し、在宅での生活を支援しています。ひとり暮らし高齢者が増加しているため、継続的に支援していく必要があります。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
緊急通報装置の貸与	新規設置数	9台	5台	8台	
	合計設置数	489台	476台	349台	

- 住宅改修・改造

身体機能が低下してからも住み慣れた地域で暮らすために小規模な住宅改修を実施した場合、介護保険制度の住宅改修費のサービスが活用できます。住民税非課税者に対しては、介護保険制度の住宅改修費の限度額を超える部分について、上乘せサービスとして一部助成を行いました。助成の実施にあたっては、事前に利用者や家族、ケアマネジャー等と打合せをし、身体状況に合わせた改修となるよう適切な助言・指導を行い、効果的な事業実施となるよう努めました。助成後の効果検証、介護保険事業者連絡協議会等を通じてのケアマネジャー等への制度の周知についても、今後取り組んでいく必要があります。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
住宅改修・改造	要介護3～5	0件	1件	1件	
	要介護1～2及び要支援	3件	4件	5件	
	合計	3件	5件	6件	

- ふれあい収集

高齢や身体障害などの理由から、指定のゴミ置き場へのゴミ出しが困難であり、かつ事業対象となる人の戸別収集を行っています。制度利用者は増加傾向にあり、今後もこの傾向は持続するものと見込まれます。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
ふれあい収集	利用者数	4名	7名	16名	

- 敬老事業

満100歳の誕生日を迎えた人を訪問し、長年にわたる地域社会への貢献に敬意を表するとともに、敬愛を込めて記念品を贈呈しました。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
敬老事業	100歳訪問者数	46名	37名	46名	

- 介護用品支給事業

要介護度3～5で住民税非課税世帯の高齢者を在宅で介護している家族に対して、紙おむつ等の介護用品を支給しています。介護者である家族の身体的、精神的及び経済的な負担の軽減を図ることで、高齢者の在宅生活の継続につなげています。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
介護用品支給事業	登録者数	187名	176名	170名	

- 家族介護者交流事業

津山市社会福祉協議会に委託し、「津山市介護者の会」、「津山市認知症の人と家族の会」などの家族介護者団体と連携しながら、家族介護者の交流を実施しました。家族介護者団体の役員の減少及び高齢化が進んでいるため、事業の周知を行い、在宅生活を支える家族介護者の精神的負担軽減を図る必要があります。

## (2) 高齢者の権利擁護

- 高齢者虐待対策事業

「高齢者虐待防止法」に基づき、高齢者虐待を防止し、高齢者及び養護者の支援を行っています。高齢者虐待についての事実を確認した結果、虐待の判断には至らない事例もありましたが、認知症等を含め何らかの個別支援が継続的に必要な場合が多く、状況に応じて対応しています。高齢者虐待の発生件数、認定件数共に増加傾向にあり、地域包括支援センターを含めた関係機関との連携が今後も重要となります。

地域包括支援センター 相談対応件数		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和4(2022)年度
高齢者虐待 相談対応件数	新規対応件数	49件	52件	77件	
	継続対応件数	1,521件	1,496件	1,722件	
内訳(重複あり)	身体的	519件	539件	498件	
	経済的	84件	120件	151件	
	心理的	432件	656件	582件	
	介護放棄・ 放任	92件	181件	130件	
	性的	0件	0件	0件	
	要介護施設 従事者等	1件	0件	18件	

高齢者虐待認定件数		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和4(2022)年度
養護者等による虐待		34件	38件	55件	
施設従事者等による虐待		0件	2件	4件	
合 計		34件	40件	59件	

## (3) 福祉施設等の活用

- 養護老人ホーム

概ね65歳以上で、環境及び経済的な理由から、自宅での生活が困難な高齢者に対し、入所、養護を行う施設です。

		第7期計画		第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和4(2022)年度
養護老人ホーム	入所数	137人	144人	139人	

※(各年4月1日現在)

- 高齢者生活福祉センター

久米高齢者生活福祉センター「やすらぎの丘」の居住部門は、家族の支援を受けることが困難で、在宅生活に不安がある高齢者の生活の場として機能しています。

区 分		第7期計画	第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
高齢者生活福祉センター	利用者数	16人	12人	14人
	延べ利用者数	1,139人	739人	1,111人

- 福祉関係温泉施設

高齢者総合福祉施設「めぐみ荘」は、市民の健康の増進と、交流及び介護予防を目的に設置しています。新型コロナウイルス感染症の影響から、利用者数は減少していることから、高齢者をはじめとした地域住民等への幅広い周知が必要となっています。

区 分		第7期計画	第8期計画	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
福祉関係温泉施設	利用者数	47,975人	28,087人	38,244人
	利用料収入	14,259,637円	9,545,146円	12,021,967円

## 8 介護保険サービスの現状と評価

### (1) 人口・高齢化率等

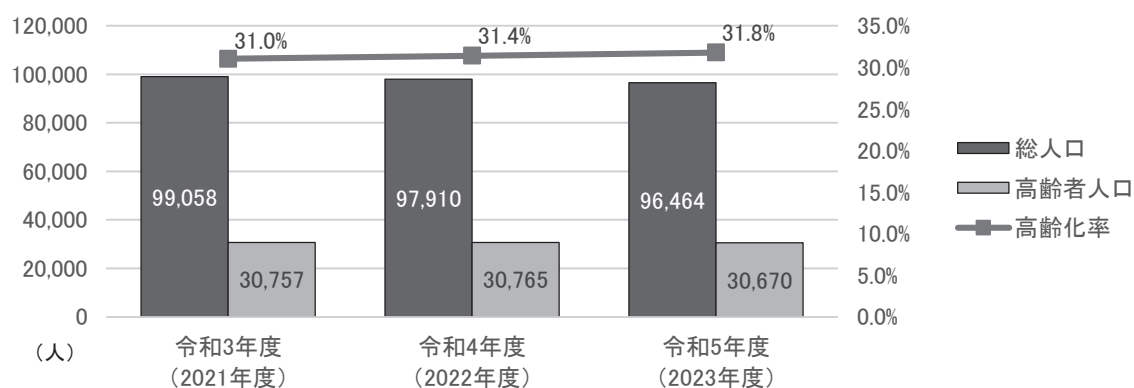
本市の総人口は減少傾向にあり、令和5（2023）年10月1日現在は96,464人となっています。一方で、高齢者人口は、後期高齢者が増加しています。また、市全体及び全ての圏域においての高齢化率も上昇しており、最も高い加茂・阿波圏域では46.7%となっています。

【本市の人口・高齢化率等の推移】

区分		第8期計画		
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
総人口	実績(人)	99,058	97,910	96,464
高齢者人口	実績(人)	30,757	30,765	30,670
	前期高齢者	実績(人)	14,829	14,383
	後期高齢者	実績(人)	15,928	16,382
高齢化率	実績(%)	31.0%	31.4%	31.8%

資料:住民基本台帳(各年10月1日現在)

【総人口・高齢者人口・高齢化率の推移】



【日常生活圏域ごとの高齢化率の推移】

区分	第8期計画		
	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
東部圏域	26.6%	27.1%	27.5%
西部圏域	30.4%	30.8%	31.4%
南部圏域	35.9%	36.3%	36.4%
北部圏域	24.5%	24.9%	25.4%
中央部圏域	32.7%	32.7%	33.0%
加茂・阿波圏域	45.1%	46.3%	46.7%
勝北圏域	38.2%	38.7%	39.3%
久米圏域	41.3%	41.9%	42.2%
津山市全域	31.0%	31.4%	31.8%

資料:住民基本台帳(各年10月1日現在)



## (2) 要介護認定者数及び認定率の状況

要介護認定者数は、近年はやや減少傾向にあり、令和5（2023）年8月末で6,080人となっています。要介護度別にみると、令和5（2023）年度は令和3（2021）年度より要介護3が特に減少しています。

認定率は、19%台で横ばいとなっています。

【要介護度別認定者数】

区 分			第8期計画		
			令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
要支援	要支援1	実績(人)	805	771	780
		推計(人)	780	781	787
		実績/推計	103.2%	98.7%	99.1%
	要支援2	実績(人)	749	707	719
		推計(人)	767	773	776
		実績/推計	97.7%	91.5%	92.7%
	計	実績(人)	1,554	1,478	1,499
		推計(人)	1,547	1,554	1,563
		実績/推計	100.5%	95.1%	95.9%
要介護	要介護1	実績(人)	1,449	1,433	1,421
		推計(人)	1,418	1,428	1,441
		実績/推計	102.2%	100.4%	98.6%
	要介護2	実績(人)	952	921	978
		推計(人)	1,001	1,021	1,033
		実績/推計	95.1%	90.2%	94.7%
	要介護3	実績(人)	764	767	705
		推計(人)	807	821	829
		実績/推計	94.7%	93.4%	85.0%
	要介護4	実績(人)	797	838	837
		推計(人)	762	762	768
		実績/推計	104.6%	110.0%	109.0%
	要介護5	実績(人)	663	624	640
		推計(人)	737	752	760
		実績/推計	90.0%	83.0%	84.2%
	計	実績(人)	4,625	4,583	4,581
		推計(人)	4,725	4,784	4,831
		実績/推計	97.9%	95.8%	94.8%
合計	実績(人)	6,179	6,061	6,080	
	推計(人)	6,272	6,338	6,394	
	実績/推計	98.5%	95.6%	95.1%	

資料：介護保険事業状況報告月報（各年9月末現在、令和5(2023)年のみ8月末現在）

※認定者数は、第2号被保険者も含む

【認定率の実績と推計】

区 分		第8期計画		
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
認定率 (第1号被保険者)	実績	19.8%	19.4%	19.5%
	推計	20.2%	20.4%	20.6%

資料:住民基本台帳(各年10月1日現在)及び介護保険事業状況報告月報(各年9月末現在)

※令和5(2023)年のみ8月末現在

### (3) 介護サービス給付費の状況

介護予防サービス等及び介護サービス等の給付費の状況は、次のとおりです。

① 介護予防サービス等

ア 介護予防サービス

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
介護予防訪問入浴介護	実績	0	0	0
	推計	0	0	0
	実績/推計			
介護予防訪問看護	実績	5,598	7,254	11,065
	推計	3,291	3,293	3,293
	実績/推計	170.1%	220.3%	336.0%
介護予防訪問リハビリテーション	実績	310	284	0
	推計	589	1,178	1,178
	実績/推計	52.6%	24.1%	0.0%
介護予防居宅療養管理指導	実績	1,111	1,293	1,630
	推計	1,002	1,081	1,081
	実績/推計	110.9%	119.6%	150.8%
介護予防通所リハビリテーション	実績	101,275	92,515	92,065
	推計	106,052	107,426	107,901
	実績/推計	95.5%	86.1%	85.3%
介護予防短期入所生活介護	実績	2,500	2,496	7,108
	推計	1,957	1,958	1,958
	実績/推計	127.8%	127.5%	363.0%
介護予防短期入所療養介護(老健)	実績	155	113	0
	推計	0	0	0
	実績/推計			
介護予防短期入所療養介護(病院等)	実績	0	0	0
	推計	0	0	0
	実績/推計			

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
介護予防短期入所療養介護 (介護医療院)	実績	0	0	0
	推計	0	0	0
	実績／推計			
介護予防特定施設入居者生活介護	実績	33,095	28,064	34,802
	推計	37,218	37,719	37,719
	実績／推計	88.9%	74.4%	92.3%
介護予防福祉用具貸与	実績	29,603	30,929	31,548
	推計	31,660	31,716	31,876
	実績／推計	93.5%	97.5%	99.0%
特定介護予防福祉用具購入費	実績	4,191	4,034	5,044
	推計	3,818	4,087	4,087
	実績／推計	109.8%	98.7%	123.4%

イ 地域密着型介護予防サービス

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
介護予防認知症対応型通所介護	実績	0	0	0
	推計	0	0	0
	実績／推計			
介護予防小規模多機能型居宅介護	実績	14,192	17,907	14,261
	推計	18,885	18,321	18,321
	実績／推計	75.1%	97.7%	77.8%
介護予防認知症対応型共同生活介護	実績	5,339	5,318	2,930
	推計	8,642	8,647	8,647
	実績／推計	61.8%	61.5%	33.9%

ウ 介護予防住宅改修

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
介護予防住宅改修費	実績	15,386	15,138	14,385
	推計	18,536	17,616	17,616
	実績／推計	83.0%	85.9%	81.7%

工 介護予防支援

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
介護予防支援	実績	35,534	35,450	35,351
	推計	35,844	36,018	35,751
	実績／推計	99.1%	98.4%	98.9%

【介護予防サービス等給付費の合計】

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
合計(ア～エ)	実績	248,288	240,795	250,190
	推計	267,494	269,060	269,428
	実績／推計	92.8%	89.5%	92.9%

② 介護サービス等

ア 居宅サービス

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
訪問介護	実績	622,181	601,529	637,696
	推計	610,917	631,216	640,473
	実績／推計	101.8%	95.3%	99.6%
訪問入浴介護	実績	12,708	11,631	11,941
	推計	20,095	20,425	20,425
	実績／推計	63.2%	56.9%	58.5%
訪問看護	実績	157,331	159,307	168,236
	推計	153,199	160,433	163,207
	実績／推計	102.7%	99.3%	103.1%
訪問リハビリテーション	実績	10,119	10,892	13,298
	推計	12,069	12,359	12,666
	実績／推計	83.8%	88.1%	105.0%
居宅療養管理指導	実績	27,361	28,157	33,733
	推計	27,538	28,713	29,261
	実績／推計	99.4%	98.1%	115.3%

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
通所介護	実績	721,531	663,501	666,720
	推計	756,694	796,013	819,986
	実績／推計	95.4%	83.4%	81.3%
通所リハビリテーション	実績	457,296	450,255	446,018
	推計	463,222	487,363	495,474
	実績／推計	98.7%	92.4%	90.0%
短期入所生活介護	実績	219,354	207,729	180,608
	推計	220,352	225,142	228,560
	実績／推計	99.5%	92.3%	79.0%
短期入所療養介護(老健)	実績	47,036	46,684	38,722
	推計	69,933	72,975	75,180
	実績／推計	67.3%	64.0%	51.5%
短期入所療養介護(病院等)	実績	0	0	0
	推計	0	0	0
	実績／推計			
短期入所療養介護(介護医療院)	実績	0	0	0
	推計	0	0	0
	実績／推計			
特定施設入居者生活介護	実績	630,118	657,519	675,079
	推計	637,231	649,056	655,012
	実績／推計	98.9%	101.3%	103.1%
福祉用具貸与	実績	207,162	212,800	218,428
	推計	209,647	223,240	228,208
	実績／推計	98.8%	95.3%	95.7%
特定福祉用具購入費	実績	9,133	10,641	13,792
	推計	8,923	9,637	9,637
	実績／推計	102.4%	110.4%	143.1%

イ 地域密着型サービス

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	実績	82	801	0
	推計	0	0	0
	実績/推計			
夜間対応型訪問介護	実績	0	0	0
	推計	0	0	0
	実績/推計			
認知症対応型通所介護	実績	63,323	45,026	49,207
	推計	66,089	66,897	68,031
	実績/推計	95.8%	67.3%	72.3%
小規模多機能型居宅介護	実績	232,741	247,542	270,959
	推計	185,232	193,655	196,757
	実績/推計	125.6%	127.8%	137.7%
認知症対応型共同生活介護	実績	943,753	943,545	962,502
	推計	967,417	967,954	967,954
	実績/推計	97.6%	97.5%	99.4%
地域密着型 特定施設入居者生活介護	実績	229,246	239,277	246,307
	推計	249,385	253,944	255,853
	実績/推計	91.9%	94.2%	96.3%
地域密着型 介護老人福祉施設入所者生活介護	実績	0	0	0
	推計	0	0	0
	実績/推計			
看護小規模多機能型居宅介護	実績	0	0	0
	推計	0	0	0
	実績/推計			
地域密着型通所介護	実績	321,263	341,910	334,745
	推計	327,874	338,901	343,768
	実績/推計	98.0%	100.9%	97.4%

ウ 住宅改修

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
住宅改修費	実績	19,564	21,985	20,543
	推計	17,509	18,269	18,269
	実績/推計	111.7%	120.3%	112.5%

工 居宅介護支援

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
居宅介護支援	実績	374,300	368,979	366,986
	推計	378,651	394,838	398,494
	実績／推計	98.9%	93.5%	92.1%

オ 介護保険施設サービス

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
介護老人福祉施設	実績	2,264,683	2,227,334	2,174,209
	推計	2,355,562	2,404,607	2,455,592
	実績／推計	96.1%	92.6%	88.5%
介護老人保健施設	実績	1,208,266	1,196,828	1,146,342
	推計	1,293,606	1,339,592	1,374,355
	実績／推計	93.4%	89.3%	83.4%
介護療養型医療施設	実績	302	0	0
	推計	4,914	4,917	4,917
	実績／推計	6.1%	0.0%	0.0%
介護医療院	実績	148,217	146,994	168,180
	推計	151,145	151,229	151,229
	実績／推計	98.1%	97.2%	111.2%

【居宅サービス・施設サービス等給付費の合計】

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
合計(ア～オ)	実績	8,927,070	8,840,867	8,844,251
	推計	9,187,204	9,451,375	9,613,308
	実績／推計	97.2%	93.5%	92.0%

③ その他費用

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
特定入所者介護サービス費	実績	287,219	239,761	229,760
	推計	284,140	257,227	260,413
	実績／推計	101.1%	93.2%	88.2%
高額介護サービス費	実績	214,103	209,370	214,471
	推計	205,007	206,111	208,954
	実績／推計	104.4%	101.6%	102.6%
高額医療合算介護サービス費	実績	37,950	36,704	35,341
	推計	36,606	37,200	37,713
	実績／推計	103.7%	98.7%	93.7%
審査支払手数料	実績	9,195	7,825	9,092
	推計	8,404	8,540	8,658
	実績／推計	109.4%	91.6%	105.0%
合計	実績	548,467	493,660	488,664
	推計	534,157	509,078	515,738
	実績／推計	102.7%	97.0%	94.8%

④ 地域支援事業

(単位:千円)

区 分		第8期計画		
		令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) (見込み)
介護予防・日常生活支援総合事業費	実績	104,485	100,174	123,423
	推計	137,284	140,388	143,483
	実績／推計	76.1%	71.4%	86.0%
包括的支援事業・任意事業費	実績	172,032	182,056	219,528
	推計	127,051	127,075	127,104
	実績／推計	135.4%	143.3%	172.7%
合計	実績	276,517	282,230	342,951
	推計	264,335	267,463	270,587
	実績／推計	104.6%	105.5%	126.7%



#### (4) 介護保険サービス事業者の状況

令和5（2023）年4月1日現在の事業者数及び施設数を記載しています。

- 居宅介護支援事業者

在宅サービスを希望する利用者の介護（予防）サービス計画を作成するとともに、サービス計画に基づいてサービス事業者との連絡調整を行ったり、施設入所を希望する場合には施設への紹介やその他の便宜を提供する事業者

区 分	事業者数
居宅介護支援事業者	30事業所

- 介護予防支援事業者

要支援1・2の認定となった人に対し、サービス計画を作成し、介護予防を実施する事業者の紹介や連絡調整を行う事業者

区 分	設置箇所
津山市地域包括支援センター	1か所
津山市地域包括支援センターサブセンター	8か所

- 在宅サービス

区 分	事業者数
訪問介護	27事業所
訪問入浴介護	2事業所
訪問看護	88事業所
訪問リハビリテーション	72事業所
通所介護(デイサービス)	18事業所
通所リハビリテーション(デイケア)	151事業所
短期入所生活介護(ショートステイ)	11施設
短期入所療養介護(ショートステイ)	15施設
特定施設入居者生活介護	10施設
認知症対応型共同生活介護	20事業所
地域密着型通所介護	20事業所
認知症対応型通所介護	2施設
小規模多機能型居宅介護	6施設
地域密着型特定施設入居者生活介護	4施設
福祉用具の貸与・購入	9社

- 施設サービス

区 分	事業者数
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	9施設
介護老人保健施設(老人保健施設)	6施設
介護医療院	1施設